

# 「大沼枕山・鶴林関係資料」目録

大沼 宜規 編

## 凡例

1. 本目録は、国立国会図書館が所蔵する「大沼枕山・鶴林関係資料」（請求記号：WB32-3）を整理した際の細目順に並べた目録である。
2. 請求記号枝番欄は、枝番の番号を記した。当館における補修以前に、同一の台紙に貼付されていた場合、または同一の封筒に収められていた場合は、境界を破線で示した。
3. 標題欄は、原標題を採録したが、多くは原標題がないため、〔 〕書きで付標題を記した。詩稿・文稿の場合、詩や文の題は採録せず、〔詩稿〕、〔文稿〕と記した。葉書については〔書簡（葉書）〕と記して分かるようにした。
4. 作成者（発信者）欄及び受信者欄は、原則として資料にある通り採録した。受信者欄については敬称も採録した。封筒などが付されており、封の記名が書状の記名と異なる場合は／を付して続けて記した。作成者（発信者）名が印判または印刷で記されている場合は〔 〕書きにした。
5. 作成者住所欄、受信者住所欄は、原資料の通り採録したが、数字はアラビア数字による表記に改めた。
6. 作成年月日欄は、作成年を推定した場合や消印等から採録した場合は〔 〕書きとした。数字はアラビア数字による表記に改めた。
7. 備考欄は、注記の情報を記し、その後、以下に説明する【内容】【翻刻】【参考】【作成者補】の項目を設けた。注記については、封筒の有無、年の根拠などの情報を記した。楠莊三郎の朱書については、「詩稿」「画稿」など一部のもののみ取り上げた。  
【内容】：主要な内容を摘録した。可能な範囲で原文の表現を再現するようにしたが、わかりやすさを優先しており、原文をそのまま表記したものではない。時候の挨拶や一般的な贈答などは原則として省いた。  
【翻刻】：翻刻が掲載されているものの情報を掲げた。  
【参考】：作成者（発信者）欄、受信者欄や作成年月日推定の根拠となる情報などを記した。  
【作成者補】：作成者（発信者）欄に挙げた人物について補足した。

なお、福生市郷土資料室編『大沼枕山来簡集』福生市教育委員会,1988.は『来簡』と、尾形仿『漢詩人たちの手紙—大沼枕山と嵩古香』ゆまに書房,1994.は『手紙』と、永井壮吉『荷風全集』第27巻書簡,岩波書店,1995.は『荷風全集』27巻と示した。

8. 現在通行の字体を用いた。
9. 判読不能の文字については□で示した。
10. 年代や人物の同定にあたっては、上述の尾形仿『漢詩人たちの手紙—大沼枕山と嵩古香』の注を参照した。
11. 採寸にあたっては、古典籍資料室非常勤職員であった駒ヶ嶺法子氏に調査のご協力をいただきましたので、記してお礼申し上げます。

請求 記号 枚番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
1	(書簡)	慶喜		(欠)		(慶応4年) 2月	1軸	15.6 × 87.9cm (本 紙のみ。書 付 24.2 × 17.2cm、箱 23.6 × 7.3 × 6.6cm)	年は内容による。箱入。卷子装。本紙後欠。 本文と同書で「東叡山二御誼懐中(以下欠)」 とあり。明治41年10月19日書付の大沼鶴 林書付1枚を付す。大沼鶴林書付には「前 將軍徳川公手簡上野輪王寺宮様 越前春嶽 公ヨリ先師大沼枕山二内覧語詢せしめられ しもの也」(「越前春嶽公ヨリ先師大沼枕山 二内覧せられしもの也」とあるものを訂正) 「安二人二示スベカラス」(大沼鶴林秘蔵) 「明治四十一年十月十九日家蔵中より発見 す」とあり。【内容】謝罪状。「全て臣慶喜 一身之不束より生候儀二而天怒二候候段、 一言之申上様も無御座次第」「何卒官軍御 差向之儀は暫時御難予被成下、臣慶喜之一 身を被罰、無罪之生民塗炭を免され候様仕 度、臣慶喜今日之懇願此事二御座候」【翻刻】 『来簡』129【作成者補】徳川慶喜
2	(書簡)	慶永		枕山様		(明治21年) 12 月 17日	1通	17.1 × 55.9cm	年は内容による。【内容】印度国錫蘭(セイ ロン) 島ゴール、パラマوند寺住職ダン ナマンド、拙宅近隣目白台へ旅寓。8日、 釈雪照インド僧を召連れ、拙宅を訪問。通 弁は英語。錫蘭は仏法盛んなれども日本の 如きにあらず。台徳公の御霊廟拜見、世界 第一と稱すべし。浅草も広壯麗美と申す。 日本の寒気には困難。【翻刻】『来簡』54【参 考】『読売新聞』明治21年11月29日号 などに記事あり。【作成者補】松平慶永
3	(書簡)	法正寺	牛込	大沼先生様 (ママ)		7月7日	1通	14.9 × 39.0cm	【内容】暑中御窺い、申元御礼。先頃より少々 平臥、漸く当月に入り出勤。【翻刻】『来簡』 17

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
4	(書簡)	木内源五 郎		鈴木松塘先 生		[安政3年] 8月 20日	1通	15.7 × 48.6cm	年は『手紙』による。【内容】4月13日の御手紙、7月13日接手拝読。此度御西遊、拙家へも御立ち寄り下さる思召しの処、草津湯へ繰え成され、右に付、高作1葉、『星巖先生詩集』1部御贈下され落手。御過訪を樂しみにするも洩なき次第。近日柴川先生に書状差出し。近作5首御添削、御序の節大沼氏方へ御出し下さるべく希う。【翻刻】『來簡』134【作成者補】木内芳軒
5	(書簡)	木内源五 郎		枕山老先生		4月10日	1通	16.3 × 28.5cm	【内容】小生、先月19日帰宅、度々上堂御役介(ママ)、奉謝。鹿品呈上。紙包(鈴木松塘老人へ御届け下さるべし。【翻刻】『來簡』59【作成者補】木内芳軒
6	(書簡)	木内源五 郎		枕山老先生		11月7日	1通	15.8 × 65.4cm	後次(請求記号枝番96に続く)。【内容】「桃堂碑文」取手、秋翁への潤筆、届かず如何しく存ず。小諸飛脚へ7月中間合せいたす。聯落6葉、小片2葉潤筆依頼。潤筆料300疋呈上。【翻刻】『來簡』60【作成者補】木内芳軒
7	(書簡)	白田貞章		大沼先生		[文久元年] 11月 25日	1通(2 枚合1 枚)	15.8 × 93.3cm (破 損部分の補紙 を含む。各 紙①15.8 ×46.0cm ②15.8 × 43.1cm)	途中欠。年は『手紙』による。【内容】8月中出府の節御厚情忝し。和宮縁御通興、文配役所手伝い、9月初より詰切のため不音、本意に背く。恒太郎出入一件、10月晦日迄日延へ。誦詠方、重右衛門家内残らず領い、件全快。二男頼頼領い、積裏余殃一時に報い、恐るべし。【参考】和宮は文久元年10月20日京都発。【翻刻】『來簡』61
8	(書簡)	中村城山		大沼様・御 関中様・御 人々御中		3月	1通	15.0 × 35.3cm	【内容】煙草、御関中様へ拝呈。【翻刻】『來簡』62

9	〔書簡〕	〔欠〕	〔欠〕			1通	15.7 × 29.0cm	前・後欠。【内容】甲府到着。東道之主遠行、当惑。(長谷川) 昆溪添書の方へ参り、一向日逗留。詠物詩題詞・小引、添削の上、上本願う。老兄御作へも題言考え、刪正の上、巻尾に附し下されれば大慶。【翻刻】『来簡』127
10	〔書簡〕	江幡通寛	大沼枕山先生	(明治12年) 2月 15日		1通	15.6 × 32.0cm	年は『手紙』による。【内容】田園の拙作100首上梓。先此御正し下さる内、序文なり題辭の詩なり御作り下さりました。1詩分り兼ね、別紙差上げ。【翻刻】『来簡』94【参考】『田園雜詩』は明治12年刊。【作成者補】江幡晩香
11	〔書簡〕	英	先生	20日		1通	15.6 × 38.0cm	【内容】拙稿御筆削下されれば、此人にお渡し下されたし。拙稿2葉御筆削下されたし。【翻刻】『来簡』95
12	〔書簡〕	溝口恒	大夫子	7月1日		1通	19.6 × 30.7cm	【内容】拙稿御削正下されれば、御返却願う。本月、川島御贈詩御揮毫下さる趣、川島へ通知、御一揮下されたし。【翻刻】『来簡』96【作成者補】溝口桂藏
13	〔書簡〕	丸山人	上州より 枕夫子	〔文久2年〕		1通	15.9 × 39.4cm	年は『手紙』による。後次。【内容】「唐松山人詩稿」序文御改削願う。山田三川逝去、右仁に頼る。「唐松山人遺稿」御覧下されれば御返却願む。秋来、拙詩草稿指上げ。【翻刻】『来簡』97
14	〔書簡〕	堀口貞欵	大沼枕山先生	(明治22年) 12 月20日		1通	16.7 × 81.3cm	年は『手紙』による。【内容】春翁(森春滿)長逝、金剛・(牧野)再龍病没。牧野翁赤貧中、未亡人如何。愚老11月19日より半身不遂症に罹り、未だ筆研操る迄には到らず。牧野翁追憶拙作点竄の上御郵送下されたし。金1円歳暮として差上げ。【翻刻】『来簡』98【参考】牧野再龍は明治22年没。【作成者補】堀口藍園
15	〔書簡〕	渡辺平作	大沼先生	3月5日		1通	16.2 × 42.8cm	【内容】壁谷貞新居落成、随分結構なれ共、枕山先生の玉作を展せざれば壯観不足。謝儀は僅に金1円のみ。求めの深切なるに感じ、貞に換て乞う。小生へも御近作御恵投望む。【翻刻】『来簡』99
16	〔書簡〕	翠	枕山先生	桂月(8月) 18 日		1通	15.6 × 27.9cm	前欠。上書に「桃堂翁碑文添」あり。【内容】不動道程之碑、字数少なき方宜し。【翻刻】『来簡』100

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
17	(書簡)	岩下敬		枕山老先生		[文久2年] 2月 8日	1通	15.1 × 92.8cm	年は『手紙』による。【内容】傳集2部落 手は『桜園雨後』乾1冊差上げ。板下、銀 2分位にて宜しき様願う。去年10月初旬差し 出す。金3歩に楊園行2歩、2朱人の封飛脚 差し上げ置く。書手御任せ申上る。板下 認料一刻料、前も御集板下さされたく、 合い御示教願う。御集板下の儀去年中おそ るおとる御塾中迄願ひ、御話語下さる儀に 付願う。【翻刻】『米簡』87【参考】『桜園 雨後』刊行は文久2年。【作成者補】岩下 桜園
18	(書簡)	鳥居道		枕山大先生			1通	16.6 × 50.5cm	【内容】両国方も邸内の者罷り出る 後欠。候様承る。天氣宜しき故敷、存外盛 者有。前後御尽力万謝。玉野湖村新鑛、蕪草 差上げ。【翻刻】『米簡』88
19	(書簡)	竹内素		大沼枕山先 生		[慶応2年] 8月 25日	1通	16.7 × 34.4cm	年は『手紙』による。【内容】家詩 上木に付、金子借用、証文調印希う。『櫻 鳴集』題詩の事、函方ハハにて盛寛の函令 作出来、別家へ廻す。題詩御急製願う。(玉 野)湖村より両三人出向。先生の御社中の 御出向、今両三人希う。平林より異物受取 次第御礼罷り出る。【翻刻】『米簡』89【作 成者補】竹内楊園
20	(書簡)	[欠]		[大] 沼先 生		7月 18日	1通	16.5 × 30.9cm	差出入部分欠。【内容】津島神社祠官に奉職、 当分ハ右地方へ罷り越す。相替らず漆刻を 願う。紋々5、6言つ石摺にて刻したく、 先生の御一筆を序に願う。僕の詩、御一覽 願う。草御加毫願う。石摺出来のうえ御 覧に入れる。【翻刻】『米簡』90
21	(書簡)	仁科寛		大沼老先生		1月 13日	1通	16.6 × 42.0cm	【内容】一昨年御認め物御聞済み、有難く 存ず。尚又、御認め願ひ上げる。潤謝 60 銭御笑納下されば大慶。【翻刻】『米簡』 91
22	(書簡)	[欠]		[欠]		紀元2538年(明 治11年)	1通	15.7 × 24.0cm	後欠。【内容】年賀挨拶。金200疋御受納 くださるべし。親類井沢氏よりの顔面1 枚・唐紙1枚の件(後欠)。【翻刻】『米簡』 126

23	[書簡]	[欠]	[欠]				1通	14.7 × 77.1cm (旧 台紙裏朱書 切版 8.4 × 2.8cm)	旧台紙裏に楠井三郎朱書「第五巻」とあり。後欠。【内容】私書きの様にも頼頼、おすまさまへも相談。私事眼の療治願ひ市川貫亮宮内省へ出る。此の人を頼み皇后宮様御歌御相手に出たく申し入れ置くも、十に九はむつかしき事と存ず。町家にてても官員にても仕事にても立働きたいささず相済む処へ参りたり。従五位様にも御意、月給は少なく小遣りだけよろしく、余り骨の折れぬ処へ参りたく、大沼様にも御心当りの処あらば、お世話願う。中沢広郷殿へ万事身分の処なげかけ頼む。信州の方いか様の様子、当人見込行々の所承る様に付、寛徳方へ申遣す。【翻刻】『米簡』128
24	[書簡]	海関・小六／橋本海関	／ハリマ明石丸下	鶴林詩兄／大沼鶴林様	／東京神田区順天中学校	(明治44年) 4月16日	1通	17.8 × 87.6cm (封筒 20.0 × 15.7cm)	白画像入り。封筒を付す。年は消印による。【内容】『羅山文集』に明石の「風伝流箱法序」あり。大塚、神戸、印南、加古、加東に『羅山文集』所蔵の人なし。先々年森春満翁明石へ来遊の節、携え来る。「風伝流箱法序」御写し下さるべし。【翻刻】『米簡』139
25	[書簡]	古田耕雲	／備中御月郡三原村	大沼詞宗／大沼鶴林様	／東京牛込区矢来町三番地山里白四号	(8日)	1通	16.5 × 31.9cm (封筒 18.8 × 11.9cm)	封筒を付す。封筒は破損。日は消印による。【内容】石原名譽員より御寄稿の玉吟、諸家の評語懇望。汪生秘吟教首添え、御教示御批評下されれば幸甚。先生にも玉稿佳作、文壇上有益の雅辞等御惠投を願う。【翻刻】『米簡』140
26	[書簡]	割田不識	竜宝寺	大沼枕山老先生		1月25日	1通	18.1 × 41.0cm	【内容】年賀の験として金50銭差上げ。【翻刻】『米簡』101
27	[書簡]	彦之		枕山老先生		(明治22年) 11月6日	1通	17.1 × 19.8cm	年は『手紙』による。【内容】過日晝前香料有難し。今日(鶴)采蘭初七日。薄供御目にかける。御風味下されば大慶。【翻刻】『米簡』102【参考】編采蘭は明治22年10月31日没。【作成者補】鈴木松唐
28	[書簡]	太田菊次・野村錦之助	中之郷竹丁	大沼大先生		7月4日	1通	16.0 × 43.7cm	【内容】昨日は御来駕、有難き仕合せ。懸物の箱、御上書願ひ申上げる。【翻刻】『米簡』103
29	[書簡]	真		枕山老詞長		1月7日	1通	17.1 × 39.8cm	【内容】「一年草端夢云々ハ歳晚」は「病間年亦新云々ハ歳旦」と認むべき処、認め方前後、歳旦の作ハ歳晚と誌す。執筆者より申出、誤謬の段申し上る。【翻刻】『米簡』104

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
30	(書簡)	榮陰		枕山大沼先 生		2月9日	1通	17.5 × 48.6cm	【内容】詩劄序文認め下され有難く存す。何れ序文彫刻製本出来の節、御伺い申し上げる。【翻刻】『米簡』105【作成者補】菅宮榮陰
31	(書簡)	秀		枕山先生		4月7日	1通	16.2 × 109.2cm	【内容】昨年の雑録御贈り下され、有難し。只1、2日は他出、本月3日に一草願う。只今南京人と称し日本へ渡来するは皆明の旧臣か、御教示願う。【翻刻】『米簡』106
32	(書簡)	城山光		大沼老夫子		9月12日	1通	14.4 × 35.7cm	【内容】(杉田)詩狂出京の節差し上げたき5、6吟間に合い難く、1葉又願う。先般小綴御寄正御投与を乞う。【翻刻】『米簡』107【作成者補】中村城山
33	(書簡)	城山光		枕山老夫子		11月18日	1通	16.5 × 45.2cm	【内容】過日1巻御冷削の上御投与、両三日以前達す。其他郵便に1葉又差上げ。其後御落手と存す。1綴出来も幸便無し。後便に必ず酒筆備う。御酒筆差し上げ申さざる内は御投冊無き様、御ヒトドジに差し上げ置く。1綴も遠からざさし上げ、僻村故、金子入りの致差し上げ兼ねる。規則外のよし。【翻刻】『米簡』108【作成者補】中村城山
34	(書簡)	諸徳		枕山先生		(明治20年頃) 月5日	1通	16.0 × 35.7cm	年は『手紙』注による。【内容】不如学吟社5月詩稿差出し。御副正願う。【参考】不如吟社は明治20年頃にあった枕山の詩社。【翻刻】『米簡』109
35	(書簡)	中村光		大沼老夫子		(明治10年頃) 月25日	1通	14.8 × 37.4cm	年は内容による。【内容】過日拙稿1綴、菊地翁尺牘拜受。又1巻賦し差上げ。御酒筆秋田より差上げ。過日1葉、詩狂一同、玉隣君へ託す。淑村の御序、明治詩文にて拝読。【翻刻】『米簡』110【参考】明治詩文五集(明治10年4月版)に枕山「淑村詩劄序」を収録。【作成者補】中村城山
36	(書簡)	中村光		大老夫子閣 下		9月6日	1通	14.8 × 37.5cm	【内容】杉田詩狂出京、小綴の稿1巻、御酒筆1枚願う。御酒儀は微妙洋呈。詩狂滞京中画質丈も御揮酒成されれば重畳有難し。御先般郵便を以て願う稿は、郵便に付し、御投与仰ぐ。酒儀は多分秋田より差上げ。【翻刻】『米簡』111【作成者補】中村城山



37	(書簡)	寛庭		枕山老夫子		上巳(3月3日)	1通	15.5 × 28.5cm	【内容】円通寺一件、平済に成り帰杖。【翻刻】『米簡』112
38	(書簡)	政元		枕山老先生		9月22日	1通	16.1 × 42.5cm	【内容】先月願の柳屋老人詩碑、此ももの帯留中に頂戴仕りなし。【翻刻】『米簡』113【作成者補】木内芳軒
39	(書簡)	加藤総九郎		大沼嘉年子様		(明治)26年9月29日	1通	17.3 × 81.1cm	【内容】先日中三根君外1名尊翰携帶御来臨。小生承諾ノ件、昇堂の上御渡しの心算。立腹を得ず。約束金5円、郵便為替を以て送付。【翻刻】『米簡』141
40	(書簡)	長山孝		枕山老先生		極月(12月)20日	1通	15.9 × 34.0cm	【内容】昨日仰付らるる拙画認む。梅痴牌前の軸の由、有難く大慶。【翻刻】『米簡』114【参考】梅痴は安政5年没。
41	(書簡)	普門文龍		大沼枕山先生		6月19日	1通	16.0 × 50.1cm	【内容】「俚語」草稿贈る。高点を請う。序言願い上げる。金子100疋呈上。【翻刻】『米簡』115
42	(書簡)	篤		瓢堂大沼先生			1通	15.3 × 78.3cm	後次。【内容】(遠山)雲如、大垣小原大夫(小原鉄心)に漕杖、養老之瀑布を見。10月26日晴洛。京地詩興無人。詩稿案上に唯積。八王子。一条は妻君と対泣の状無し。別紙草稿、藤岡街大石良之輔、以後門下に列し推敬願う。別封に方金謹呈。【翻刻】『米簡』116【参考】遠山雲如は文久3年没。
43	(書簡)	白田哲弥太/貞卿		大沼枕山先生/大沼様		(安政5年)2月20日	1通	15.5 × 83.0cm	年は「手紙」推定による。【内容】昨年当国(信州)高薦、拜顔を得ず残念。愚吟1冊賞覽に入れ、御加筆願い上げる。金100疋呈上。【翻刻】『米簡』63
44	(書簡)	川部亮		大沼先生		8月2日	1通	14.3 × 43.2cm	【内容】『仏山詩集』植村(藏州)縁御掛物、御書状達す。御添削、御揮毫有難し。扇子1本願い置く分、後刻、頂戴人差上げ。【翻刻】『米簡』64
45	(書簡)	頼		枕山先生		9月2日	1通	15.5 × 36.9cm	【内容】扇子2握揮毫願う。今日芝へ持参仕りたく、御出での節御携え下さる様願う。【翻刻】『米簡』65
46	(書簡)	謙讓		[欠]		24日	1通	16.2 × 31.6cm	【内容】詩集類御届け、延引恐れ入る。御春取願う。【翻刻】『米簡』122
47	(書簡)	主膳		枕山先生		12月11日	1通	16.1 × 40.0cm	【内容】小子何等の障もなし。詩作さし進らす。御加筆希う。在勤も当年越し、軍日の出張知れず因循。来夏にも帰府なるや、誠に退屈并疲弊。【翻刻】『米簡』66【参考】小膳と同筆か。

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
48	(書簡)	小膳		枕山先生		7月7日	1通	15.8 × 65.7cm	【内容】御状3封共当月4日届く、忝く拝見。6月18日広島表出立、草津宿へ出張。19日出立、五田市村百姓中西新太郎方滞留、20日極楽寺山へ明石の人数を見分の為、越す。余程の大難所。五日市村宿陣の座敷、櫓を隔て向に蔵島の山、眺望景色画に認めがたく白紙をも一望。詩作さし進らす。御加筆下さるべし。【翻刻】『米簡』67。【参考】主膳と同筆か。
49	(書簡)	小膳		枕山先生		4月21日	1通	16.2 × 35.0cm	【内容】御状2通拝見。小子何の障も無し。詩作別紙御加筆下され、忝く御礼申す。詩作別紙さし進らす。御加筆下さるべし。雲州出張の沙汰なく月日を越し久々の永陣。【翻刻】『米簡』68【参考】主膳と同筆か。
50	(書簡)	高野鄭庵	信州中野	大沼枕山老 先生		2月25日	1通	14.1 × 32.5cm	前欠。【内容】昨年中失敬、恐れ入る。愚作1巻御下け下されたし。【翻刻】『米簡』69
51	(書簡)	和田采白		大沼枕(マ マ)山様		2月13日	1通	16.1 × 42.4cm	【内容】主家隠居の詩作御点割願う。此の者へ付与下さるべし。【翻刻】『米簡』70
52	(書簡)	福井謙蔵	神戸藩	枕山先生	下谷	10月26日	1通	16.3 × 29.4cm	【内容】拙稿御是正、此の者へ御遣わし願う。鹿菓1箱呈上。【翻刻】『米簡』71【作成者補】福井鹿川
53	(書簡)	岡田瑤		大沼枕山先 生	中御徒町	極月(12月)27 日	1通	16.2 × 28.0cm	【内容】草稿御正念、此のものへ御恵投願う。【翻刻】『米簡』72
54	(書簡)	清淵橋政		枕山老先生		4月8日	1通	16.5 × 41.8cm	【内容】旧作「偶成」一首再び御奉正願う。【翻刻】『米簡』73【作成者補】橋本政直
55	(書簡)	脇坂蔵存		枕山大沼大 先生		4月30日	1通	16.6 × 33.2cm	前欠。【内容】御揮毫御願いに付、紙代として郵券封入。昨年小絹御揮毫御願ひ、彼生御六ヶ敷(むつかしく)候へば御返却下さられたし。今一番も彫稿差上、御添削願う。返稿用郵券1葉差上げ。小為替20銭差上げ。御令息新古様『国華纂新誌』加入の事御申し通し願ひ上げる。【翻刻】『米簡』74
56	(詩稿)	郵郎老				戊午(安政4年)	1枚	16.0 × 32.7cm	【内容】漢詩「戊午詩習客亭以記前大後小」。【翻刻】『米簡』142【作成者補】青木錦郎

57	〔書簡〕	松平明丸 家従		大沼先生		2月1日	1通	14.3 × 54.5cm	【内容】此の程少々風邪。一面日中に参殿。其の祈拜旨、御礼申し上じ。【翻刻】『米簡』16【参考】松平明丸は松平康民のこと。
58	〔書簡〕	木田潤		蘆洲植村詞 兄		晩夏8日	1通	16.7 × 92.8cm	【内容】昨年出府、先生御宅にて拝領。帰郷、其の後御無音多罪の至、先生御話集出来、尊兄御骨折りと感佩。【翻刻】『米簡』133
59	〔書簡〕	高井健		枕山大沼先 生		3月11日	1通	16.0 × 99.3cm	【内容】御日作1篇御惠贈有難し。怪巧の御作御更投看う。小生廢詩數年、強て1篇作りたし。草稿差上げ御添削願う。湖山兄不意の節、御致意願う。松塘兄御面会、面会の節、致意願う。【翻刻】『作会者補』高井鴻山
60	〔書簡〕	金森吉次 郎		枕山先生		(明治24年)6月 25日	1通	16.2 × 98.5cm	年は『手紙』による。【内容】(梁川)星巖翁祭典の儀、小野湖山、金原明吾、泉知事、参事官、高寺旨、貫衆阿院議員、真会議員、郡長他300有余名来。四方ノ諸名流三ノリ、八出吟集。(小野)湖山(江馬)天江(大塚)如雲(錢田)栗園(鈴木)松唐(岡本)黄石出咏到着。尊台御作、至急御送付願う。御交遊中の諸名流にも御伝願う。祭典に付『星巖遺墨』上梓。未着なれば進呈。【翻刻】『米簡』14
61	〔書簡〕	伊藤多一		枕山先生		10月19日	1通	19.9 × 61.8cm	【内容】此の人(貴田斐一)、阿州南方の人にて風流を好み、今般東上、先生拜謁に預り、御揮筆願う旨にて添書。潤筆は当人より拜呈。【翻刻】『米簡』13【参考】貴田斐一は「阿波国那賀郡南島住」とあり。
62	〔詩稿〕	〔欠〕					1枚	16.2 × 27.3cm	【内容】漢詩「示松陰先生見惠三絶句」【翻刻】『米簡』119
63	〔書簡〕	〔欠〕		〔欠〕			1通	14.5 × 36.8cm	前・後欠か。【内容】小子詩作、中井(弘)雲城)様、御覽任りたしと仰せ、扇面殊の外御意に叶い、八喜の草稿、半切2枚ご覧に入れ。御目通り致せば、官戴き事も出来と存ず。枕先生御書状頂戴願う。【翻刻】『米簡』118
64	〔書簡〕	新田断常		大沼老翁閣 下		明治21年2月2 日	1通	14.7 × 22.7cm	【内容】酒料金3円准。金10円差上げ『西游集』算立て下されたし。右「遠方へ贈りたく、薄葉にて願う。【翻刻】『米簡』12。
65	〔書簡〕	高柳敬		枕山先生		6月7日	1通	15.5 × 30.3cm	後欠か。【内容】梅花道人今日御訥ね下さるも、直ちに帰府、再会を期す。【翻刻】『米簡』11。

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
66	(開板同 書)	関忠藏	土屋采女正 家来			亥 (嘉永4年) 2 月	1通	17.1 × 34.7cm	年は『手紙』推定による。山崎久作(美成)編『都名家詩選』開板伝書。【翻刻】『来簡』123【参考】『江都名家詩選』は「押切帳」(学問所改済台帳)嘉永4年2月10日案に(著録(大沼宜規『押切帳』考証)『近代史料研究』18号、2018年)参照。【作成者補】関雪江
67	(書簡)	廉		瓢堂先生		9月14日	1通	16.5 × 41.4cm	前・後欠。【内容】御叱正を冀う。歐州行之詩五七八、殊に不妥当。近日赤華其の外、拙稿出来。此の詩御季正。小西杯へは隠微に願う。【参考】受信者は大沼枕山。【翻刻】『来簡』75
68	(書簡)	村田多門		大沼尊師君		(明治15年) 11 月22日	1通	15.6 × 36.6cm	年は『手紙』推定による。【内容】草稿御添願願うところ、速に御加誦。御紙面拝誦万謝。願ひ置く3編、序文認め下され有難し。御著述書ノ咏史唐の分2部、日本ノ分2部お下げ下されし。代価は近便に差し出す。【翻刻】『来簡』76
69	(書簡)	天野富三 郎		大沼捨吉様		7月13日	1通	16.0 × 36.7cm	【内容】中元の祝詞申し上げたく、目録の通り金50疋進上。【翻刻】『来簡』77
70	(書簡)	徳行房	常照院々代	大沼捨吉様		正月8日	1通	15.6 × 53.2cm	【内容】来月5日より開山堂講話始まる趣、何々の御講話、御書付に仰せトされし。【翻刻】『来簡』78
71	(書簡)	梧窗		大沼先生		8月13日	1通	16.5 × 52.8cm	【内容】当春交代の為上京すべき処、旧主家役員減少改革に付延滞、10月出京。別地淡氷社も社員屢出入り、清書も延引。当紙野調御正削なし下されし。印紙1裏封入。【翻刻】『来簡』79【作成者補】加集寛
72	(書簡)	三森三木 雄		枕山大沼先 生		12月24日	1通	14.2 × 47.5cm	【内容】御讃を願いたし。何分御梁筆願ひ上げる。金50錢御謝、個人書下されし。【翻刻】『来簡』80【作成者補】三森幹雄
73	(書簡)	田中謙五		枕山大沼先 生		10月17日	1通	16.5 × 101.0cm	【内容】小咏早上。先月26日都下出立。光山へ多謝。越の雪1簷早上。在府中種々御教授、多謝。越の雪1簷早上、来月より草稿差上げ。御添削遊ばされし。【翻刻】『来簡』81【作成者補】田中欽斎

74	〔書簡〕	城山中村 光	枕老夫子	4月30日	1通	15.6 × 30.3cm	【内容】杉田詩狂上巻にて御恩待を蒙り、往 拙生の文詩1綴御香正 同人へ御投下 受。近々御趾正願う。此の1葉御添削にて 御願う。觀光小説の題、御添削 を願う。暹羅御看花ヲ奉談一詩、早々御香 正を乞之。【翻刻】『來簡』82【作成者補】 中村城山
75	〔書簡〕	〔欠〕	〔欠〕	戌年	1通	166 × 134.0cm	【内容】一昨年6月、近藤樵香御入門、 御厚情有難し。日記の様に扣え置く物其も まま書上げ。画事少々勉強、人用の詩文も あり、不学口圖の男にて当惑、御筆削の上 りに見せ申さべし。晝画の題、跋は晝物よ り出しし字を取りかえらるも、新趣向に困る。 小生拙字ゆえ字の義理、意の分らざる字あ り。定めて間違の所へ入る文字あるべし。 委しく御示し下さるべし。金200疋差上げ。 【翻刻】『來簡』124
76	〔書簡〕	山田七郎 左衛門・鉄 外道入益	大沼枕山老 先生	6月23日	1通	166 × 46.4cm	前・後欠。【内容】御添削御願事申し上げ たし。(近藤)樵香老人も去秋下世。【翻刻】 『來簡』83
77	〔書簡〕	熊	枕山先生	〔文久3年〕8月 25日	1通(2 枚合1 枚)	166 × 90.1cm(補各 紙を含む。各 紙①16.5 ×37.5cm ②16.6 × 54.0cm)	年は『手紙』による。前・途中欠。【内容】〔大 坂の文林も大寂寥。(牧)百略(貫名)海屋 (遠山)雲如下世。一昨日(広瀬)旭荘の 訃を聞く。(地内)陶所(家串)松島藤む びさの至り。先生御勉強、一糸の支系を相 続下されたし。『山山堂二集』貫名海屋、遠山 (村上)弘山への御送物、後便此方へ御こ し下さるべし。穀等兄御序煩わす。【翻刻】 『來簡』8【参考】牧百略・貫名海屋、遠山 雲如・広瀬旭荘は文久3年没。【作成者補】 作成者は河野鏡児か(『手紙』推定による)。
78	〔書簡〕	酔月	枕山先生	2月26日	1通	185 × 75.7cm	【内容】佳品頂戴、奉謝。旧作の絶句認め 差し上げ、御添削の上、4、5首御加え願 い程希う。家来詩作、1旨にても御加え願 いたし。【翻刻】『來簡』10【作成者補】中島 沙山
79	〔書簡〕	和南	〔欠〕	晩秋16日	1通	167 × 66.7cm	【内容】五弓(雪窓)子參堂、来由承知の所、 不慮不幸の次第、気の毒千万。先生より御 添書あれば大宝にも承諾致さず。然るべく 御取扱い願う。【翻刻】『來簡』117【作成 者補】喜和南
80	〔書簡〕	〔欠〕	〔欠〕		1通	193 × 28.0cm	【内容】河口倫二より御内願申し置くなり、 15人扶持御願、客卿の擬合にて隔月古河 表へ御出で願う。【翻刻】『來簡』120

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
81	(書簡)	柳圃寧		枕山先生		4月14日	1通	15.9 × 54.5cm	【内容】服沙(権勢)2ツ落成。泰宗寺方丈より申し来た。此の者に付与下さるべし。【翻刻】『米簡』3【作成者補】福島柳圃
82	(書簡)	福島寧		枕山老先生		9月25日	1通	15.5 × 43.8cm	【内容】書囀の画認差上げ。【翻刻】『米簡』4【作成者補】福島柳圃
83	(書簡)	乙彦		枕山先生		2月23日	1通	15.1 × 32.5cm	【内容】鴻東在より碑文頼み。当人直に尊堂に差上げ。【翻刻】『米簡』5【作成者補】萩原之彦(『手紙』推定による)
84	(書簡)	教政		枕山先生		11月4日	1通	17.8 × 43.4cm	【内容】別紙草稿願う。恩田生より願の『書画帖』絹の義、拝承。粗絹呈上。御揮毫希う。【翻刻】『米簡』6
85	(書簡)	竹原修一 郎	脇坂揖水内	大沼捨吉様		11月28日	1通	16.3 × 52.0cm	【内容】詩稿此のものへ付し下さる様りたく存ず。【翻刻】『米簡』7【参考】脇坂揖水は脇坂安老のこと。
86	(書簡)	(奥原晴 湖)		[欠]		3月24日	1通	23.8 × 30.4cm	【内容】作成者(発信者)は『手紙』による。【内容】小生老境に入りてより詩草も忘却、(渡辺)青風草稿上げる。【翻刻】『米簡』125
87	(書簡)	児島節斎	玉川小野路 村	枕山老先生		[文久3年]7月 11日	1通	16.0 × 32.3cm	年は『手紙』による。【内容】拙草差上げ。奈正下されれば、此の賤价へ下さる。寸讀酒外、鏡屋3振、御揮毫願い上げる。寸讀酒御書封呈上。【翻刻】『米簡』32【作成者補】小島為政
88	(書簡)	梅痴		枕山雅伯		[弘化3年]6月 17日	1通	16.9 × 75.3cm	年は『手紙』による。【内容】五翁禪運の儀、整本差し越す故、200疋とりきみ(ママ)申す。咏物製本、此の度は上出来。阿波へも遣わしたく5、6部拙方へお遣わしの程希いたし。近作5首何通、(小野)湖山へも見せ、十分に推稿(ママ)下され大頼嶺山の節遣わし下さるべし。絶句4首八馬へ見せるべくしところ草稿紛失、御評へ差し出し置くを御遣わしの程希う。襖の屏風集の確、新趣向面白し。拙の詩、愚意を懷まで述べて置く。【玉池集】へ出の詩は刪たし。御奈正願い上げる。【翻刻】『米簡』56【参考】『下谷叢話』は、弘化4年のものと推定。

89	[書簡]	荻野広介		高井三九郎様		(安政4年) 7月14日	1通	16.0 × 77.7cm	年は『手紙』推定による。【内容】大沼枕山先生真地遊歴、尊家へ罷り出でる。何分御引き立て願ひ上げらる。【参考】受信者は高井燭山。【翻刻】『米簡』135
90	[書簡]	枕山大沼厚		春濤先生			1通	21.0 × 15.0cm	【内容】漢詩「新禮答賀 春濤先生」。先日受信者は春濤。【翻刻】『米簡』132【参考】受信者は春濤。
91	[詩稿]	小野愿				(明治24年)	1枚	23.7 × 14.6cm (日本紙裏朱書切版 8.1 × 2.4cm)	梅莊三郎朱書「湖山詩」とあり。旧台紙裏に梅莊三郎朱書「樞大 第一巻」とあり。【内容】漢詩「吳山老友一首」【翻刻】『米簡』145【参考】大沼枕山は明治24年没。【作成者補】小野湖山
92	[書簡]	説		熙堂盟台		(安政2年) 11月7日	1通	27.7 × 40.2cm	年は『手紙』推定による。【内容】藤川生一件多謝。(宗像) 蘆屋先生如何。水野生一御総得失如何。(竹内) 雲濤歸府、真偽如何。御内君様御病体如何。(久米) 習齋、(松村) 朴斎、吟詩出精。羅漢渡海詩、騰写呈上。鳥作雷覽に一首も無し。【翻刻】『米簡』84【参考】受信者は大沼枕山。竹内雲濤は又久2年没。
93	[書簡]	逸見庄左衛門		大沼阿嘉禰様		(明治24年) 11月15日	1通	15.8 × 77.0cm	年は『手紙』による。【内容】枕山の梅み状【翻刻】『米簡』136【参考】大沼枕山は明治24年没。【作成者補】逸見魯齋
94	[書簡]	鼎象		大沼嘉禰様		明治25年2月25日	1通	15.7 × 50.8cm	【内容】衆議院議員改選にて加藤政之助(鴻巣の政治家)式なる者当撰。御内同氏へ留したく別紙へ1律を廻す。郵書を以て御点副願ひ上げらる。【翻刻】『米簡』137【作成者補】吉川鼎象
95	[書簡]	鱸采蘭		大沼先生		11月14日	1通	16.7 × 41.4cm	【内容】半切并小切2枚、御書状1通、御漕書200疋落手。【翻刻】『米簡』85
96	[書簡]	木内源五郎		枕山先生		11月7日	1通	15.8 × 14.4cm	前欠 請求記号枝番6の末尾部分。【内容】請求記号枝番6参照。【翻刻】『米簡』60【作成者補】木内芳軒
97	[書簡]	誠		枕山老先生		5月22日	1通	19.6 × 24.0cm	【内容】『胸翠詩巻』金2円差上げ 御副正之云々。【翻刻】『米簡』86【作成者補】杉浦梅潭

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
98	〔書簡〕	丸山乙人		枕山老先生		戊(文久2年)閏 8月10日	1通	15.9 × 140.4cm	年は閏月による。【内容】当地盆前より麻 疹流行。此簡ころろ。即柳如々々、村々号叫、 念仏やら鉄砲とか狂走。拙寺も残らず麻疹。 盆後詩集取り調べ、乙巻1冊差し上げ、御 改正願い上げる。唐松山人之遺稿御覽下さ れ御返し下された。山田三郎(三川)・ 高崎飯野金八逝去、事説女らば墳ましき事。 枕山老人(釈亮順)へ先生の諸集差し遣わ したし。不破(習齋)氏風流意らざるや。 何れ拙集の序文か題詩長編にても願い上げ たし。18才才よりは是迄5巻出来、御覧校希う。 【翻刻】『米簡』92
99	〔書簡〕	大橋和太 夫		枕山先生		8月18日	1通	16.4 × 40.5cm	前・後欠。【内容】老封献上。草稿御弁正 下されれば、本郷邸追分門内に定飛脚3度 在り、御指し出し下さるべし。【翻刻】『米簡』 93
100	〔書簡〕	郷		大沼老先生		7月8日	1通	16.7 × 41.8cm	【内容】佳酒御恵投万謝。貴稿版下差し出し、 御慮校頼む。【翻刻】『米簡』53【作成者補】 門田漢齋
101	〔書簡〕	坂田後所		大沼枕山先 生		初秋16日	1通	15.0 × 71.3cm	【内容】旧冬御染筆成し下され有難し。好 便無く、彼是と取り紛れ、違沓仕る段、御 仁免下さるべし。一位刀掛皇上。【翻刻】『米 簡』57
102	〔題簽〕	(大沼枕 山)					1枚	15.0 × 2.7cm	梅莊三郎朱書「六家詩鈔 六冊 枕山筆」 とあり。作成者は梅莊三郎朱書による。【内 容】「六家詩鈔 六冊」題簽「大日本口蔭」 「枕山書房」印あり。【翻刻】『米簡』146
103	〔書簡〕	中根間		大沼老先生		9月15日	1通	16.2 × 42.5cm	【内容】草稿御添削、大謝。拙稿も御覽下 され厚謝。【翻刻】『米簡』55【作成者補】 中根半嶺
104	〔書簡〕	武田		大沼老師		(明治3年)17日	1通	17.5 × 89.5cm	前欠。年は『手紙』推定による。【内容】 梅近へ出張、一通お手元へさし上げ、御島 し下さるべし。南部侯より御建白。宇和島 小早川巻蔵先生、尊館へ伺い、篤と御相談 願い上げる。21日南部侯家老深川松 本迄出向、先生同日御出張願い上げる。【翻 刻】『米簡』1【参考】『手紙』203頁。



105	〔書簡〕	龍門寺		大沼老先生		酉(文久元年)10月8日	1通	16.3 × 166.7cm	<p>年は『手紙』推定による。【内容】(大首)龍太郎、拙寺に4、50日程も滞留、毎度困り入る仁物。此の節北越、陸州へ善向ける。去年来よりの愚作御改削願ひ上げる。高崎飯野氏も此間良久見ず、俗縁に世話を任す。落花詩御改正、御丁箋御覽下され、拝謝。萬作、久米子作、龍太郎作、竹内一角へ遣わす。如、格別当人も喜も致さず。金角の山上下にて愚天狗殿論執故、右生には一覽を乞わさる由。上州は随分先狗沢山。松露上人も田舎では老人。宗風にて大名の様の勢威、藤森(天山)老人秋來俗事揃う。【翻刻】『来簡』58【作成者補】牧野再龍</p>
106	〔書簡〕	信正		枕山老先生		4月11日	1通	19.6 × 56.7cm	<p>年は『手紙』12日午後4時半、杖橋八百松松にて鎌田殿石、杉浦梅潭等小集催す。御立ち寄り下されれば有難し。【翻刻】『来簡』31</p>
107	〔書簡〕	高俊海		枕山老先生		[明治21年]7月19日	1通	16.4 × 73.9cm	<p>年は『手紙』による。【内容】拙詩毎々御細正御礼、南朝6枚御挿巻有難し。一、米の費長、屏面贖1幅、一、鯉の御詩水か滝か鯉に近く親しき語御景(ママ)しを願ひ申し上げる。外に半切。右御兒当の御願ひ申し上げる。【翻刻】『来簡』29【作成者補】高古香</p>
108	〔書簡〕	高俊海		熏堂夫子		[明治23年]1月5日	1通	16.5 × 66.2cm	<p>年は『手紙』による。【内容】50年前の御作拝記。幅路失却、残念。風呂敷・ヤタテ講取り。ヤタテは途中におとし残念。13講の折求める旧物、旧思ある品。【翻刻】『来簡』30【参考】受信者は大沼枕山。【作成者補】高古香</p>
109	〔書簡〕	俊海		枕翁大夫子		[明治24年]4月19日	1通	16.0 × 83.8cm	<p>年は『手紙』による。【内容】拙作1綴御藏正を乞う。春山会歸りに(堀口)藍園を訪ね2信。2信目に盃に逢い、衣物を奪い去られ、藍園翁衣物を借り隔山。御正を得、藍園に寄す心を得。【翻刻】『来簡』2【作成者補】高古香</p>
110	〔詩稿〕	拈華主老 梅痴					1枚	24.0 × 34.5cm	<p>【内容】漢詩「柳枝」(「送雲如之京師」)。【翻刻】『来簡』143</p>
111	〔書簡〕	茂徳		枕山先生		6月19日	1通	15.7 × 44.8cm	<p>【内容】拙作2、3首御覽に備う。御改正願ひ上げる。【翻刻】『来簡』27</p>

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
112	(書簡)	嘉代		御新もじ様		3月12日	1通	16.0 × 98.7cm	【内容】 偏毛後御礼書状差し上げる所、4、5(日)置(ママ)不快、3、40日よせり、其の中にてふしん等差合、御礼書状差し上げ申さずおそれ入る。三、九郎事差し回け、当先人も先生へ願いたく、私も同心。御引き受け下されば、高崎殊の外よろしからず、受まされれば、安心願う。届かぬものゆへに、さままの御事何分願う。此節から何品にても高直御さつし申し上げる。とかくすぐれず、延引おそれ入る。【翻刻】『米簡』138【参考】受信者は大沼新吉。
113	(書簡)	厚		[欠]		12月6日	1通	19.7 × 72.3cm	【内容】 金100疋御目録下し置かれ恐れ入る。小生も一向日風邪、略筆恐れ入る。惟公の事御心配。【翻刻】『米簡』130【作成者補】大沼枕山
114	(書簡)	柳所		枕山夫子		7月3日	1枚	16.1 × 39.2cm	【内容】 詩箋御揮毫下されれば、此ものへお渡し下されし。【翻刻】『米簡』18【作成者補】田口柳所
115	(書簡)	五山桐孫		枕山詞契		臘月(12月)29日	1通	16.2 × 19.8cm	【内容】 金1円、梅上人より歳晚御祝詞として御惠投、有難く拝受。【翻刻】『米簡』19【作成者補】菊池五山
116	(書簡)	植村義		夫子		癸亥日(文久3年1月7日)	1通	17.2 × 59.1cm	【内容】 年賀状。新年吉祥、御清福恐。詩は刻り上かり、行違ひ有り、恐れ入る。【翻刻】『米簡』20【作成者補】植村蘆洲
117	(書簡)	弘道		大沼老師		12月6日	1通	17.6 × 49.4cm	【内容】 御厚配の確堂老一条、採明けず、困却。【翻刻】『米簡』22【作成者補】関雪江
118	(書簡)	大槻恕		大沼先生		3月9日	1通	16.1 × 54.7cm	作成者姓は端裏書による。端裏に「大沼枕山先生得史大槻忍拜」とあり。【内容】 懇稿差上げ、御加正下されたし。先稿御披覽済めば、痾草(圓根痾草か。『手紙』による)へ托し下されたし。金50疋拜呈。【翻刻】『米簡』21
119	(書簡)	存		枕翁		3月12日	1通	15.4 × 74.7cm	【内容】 画帖染筆出来なされば、此の便へお渡し下されたし。明日は本師忌日の追善、御高来待ち上げる。【翻刻】『米簡』28



請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
131	(書簡(葉書))	〇川口嘉	(本郷区駒込町10番地)	大沼枕山様	下谷御徒士町3丁目71番地	(明治19年)2月2日	1枚	14.1 × 8.8cm	差出人氏名・住所は印、年は消印による。【内容】各袋願い置く旨吟真載。一函日中使の者差し出す。御渡下されたし。【翻刻】『米簡』49
132	(書簡(葉書))	八木郁二	播州印南郡大塩	大沼枕山先生	東京下谷中御徒士町3丁目71番地	(明治20年)6月21日	1枚	14.1 × 8.9cm	年は消印による。【内容】愚意に雌黄を願ひ拜謝。【翻刻】『米簡』48
133	(書簡(葉書))	八木郁二	播州印南郡大塩村	大沼枕山先生	東京下谷中御徒士町3丁目71番地	(明治20年)6月19日	1枚	14.1 × 8.9cm	年は消印による。6月22日付消印もあり。【内容】愚稿御正答済成れば御返附待ち上げらる。【翻刻】『米簡』47
134	(書簡(葉書))	井沢藤吉郎	大門在寺山村	大沼枕山先生	東京下谷中御徒士町3丁目71番地	(明治17年)11月2日	1枚	14.2 × 9.0cm	年は消印による。同月3日付消印もあり。【内容】半折2葉、額面4枚本月4日返に御認め置き給わたりし。【翻刻】『米簡』46
135	(書簡(葉書))	高木貞一	ミノ高須	大沼枕山先生	東京下谷区仲御徒士町3丁目71番地	(明治20年)8月21日	1枚	14.1 × 9.0cm	年は消印による。同月22日・24日付消印もあり。【内容】碑文付標語贈らる。碑ともにも木村。別編の冊子、永く後人をして知らしむべく、更に簡単な一語を請う。【翻刻】『米簡』45
136	(書簡(葉書))	細野喜代四郎	神奈川県南多摩郡小川村	大沼枕山先生	東京下谷中御徒町通り3丁目71番地	(明治)19年1月5日	1枚	14.1 × 8.9cm	【内容】年賀状。蕪稿、御添削の上御返稿下されたし。【翻刻】『米簡』44
137	(書簡(葉書))	窪全亮	神奈川県南多摩郡東長沼村	枕山大沼先生	東京下谷中御徒士町3丁目71番地	丁亥(明治20年)1月元朝	1枚	14.1 × 8.9cm	【内容】年賀状。【翻刻】『米簡』43
138	(書簡(葉書))	松久禹門	遠州引佐郡奥山村	大沼枕山老大仙	東京下谷区中御徒町通り71番地	(明治17年)12月5日	1枚	14.1 × 9.1cm	年は消印による。【内容】吉野行吟詠、御認め下され有難し。速に吉野へ通送。来春小冊子に成るべし。『東京茶事』廢却の由、万一個扣の古書も御不用有らば願う。【翻刻】『米簡』42
139	(書簡(葉書))	宮木経吉	金杉村88番地	大沼枕山様	下谷中御徒町3丁目71番地	(明治21年)1月17日	1枚	14.2 × 9.0cm	年は消印による。【内容】『大日本史』遺わし下され奉請。寶朝御詩真其の内頁載に罷り在り、御見出し下されたし。【翻刻】『米簡』41

140	(書簡 書)	(葉 書)	(蘆名雪 江)	(東京荏原 郡大井村 248番地)	大沼枕山先 生	下谷仲徒町 71番地	(明治22年)11 月7日	1枚	14.2 × 8.9cm	差出人氏名・住所は印。年は消印による。【内 容】過日願いの草稿。10日頂戴に人指し成 し下されたし。【翻刻】『米簡』40
141	(書簡 書)	(葉 書)	依田稼堂	(信濃佐久郡 野沢寓)	大沼枕山先 生	東京下谷仲 御徒士町通 り3丁目 71番地	7月12日	1枚	14.3 × 9.0cm	【内容】野沢吟社も農事にて来8月迄は草 稿出来ず。拙者社中諸藩村茂原周助より6 月14日出にて田圃々吟社の東差し上げ。 御報下し書かれず茂原心配。御添削御返し 願う。【翻刻】『米簡』39
142	(書簡 書)	(葉 書)	(信夫梨)	(東京本所 区龜沢1丁 目51番地)	大沼枕山先 生	下谷中徒士 町3丁目 71番地	(明治21年)1月 12日	1枚	14.1 × 9.0cm	差出人氏名・住所は印。年は消印による。【内 容】今日端輪寺清上人(吉川日鑑)法事。 必ず御出で願う。【翻刻】『米簡』38【作成 者補】信夫梨軒
143	(書簡 書)	(葉 書)	渡辺華洲	(北総岡田郡 花色村)	大沼枕山先 生	東京下谷仲 徒町71番 地	(明治17年)11 月3日	1枚	14.1 × 8.9cm	年は消印による。【内容】此程松田氏を以 て醫足差上げ。先生御閑了の御書到来。 松田より差上げは僕の軽忽。御取り消し下 されたし。【翻刻】『米簡』37
144	(書簡 書)	(葉 書)	黒原和友	芝区白金台 町1丁目9 番地	大沼枕山先 生	下谷仲徒士 町3丁目 71番	(明治20年)4月 7日	1枚	14.0 × 9.0cm	年は消印による。【内容】弟子今般軍艦警 城号にて北海道千島に向け出立。多忙に付、 書中告別。【翻刻】『米簡』36
145	(書簡 書)	(葉 書)	山中新兵 衛	下総豊島郡 境本船町荒 川清次郎方 番地	大沼枕山先 生	東京下谷仲 御徒士町通 り3丁目 71番地	(明治17年)11 月24日	1枚	14.2 × 9.0cm	年は消印による。【内容】野詩稿急速御斧 正御通送下され雀籠。以文会の一茶。委曲 御報知下され方有り難く存す。【翻刻】『米 簡』35
146	(書簡 書)	(葉 書)	小島寺政	武州南多摩 郡小野路村	大沼老先生	東京下谷仲 御徒士町通 り3丁目 71番地	(明治20年)4月 28日	1枚	14.1 × 8.9cm	年は消印による。【内容】尊簡、拙稿共芒 封拝受、万謝。【翻刻】『米簡』34
147	(書簡 書)	(葉 書)	小島寺政	武州南多摩 郡小野路村	大沼先生	東京府下谷 中御徒士町 通り3丁目 71番地	(明治14年)11 月1日	1枚	14.2 × 9.0cm	年は消印による。【内容】拙稿芒封御送 有難く拝受。薄井謙齋々の御書承知。【翻刻】 『米簡』33
148	(書簡)	(葉 書)	通公/土 井通公	ノ京郡繩手 四条下ル東 一人	鶴林兄/大 沼鶴林兄	ノ東京牛込 御徒士町 32番地	(明治29年)9月 24日	1通	23.7 × 12.9cm (封 筒)17.3 × 13.3cm (開 封時紙片を合 ます)	封筒を付す。年は消印による。同月25日 付消印もあり。楠井三郎宋事。「土井通書簡」 とあり。【内容】被戸(玉緒、宮崎玉緒) 翁病歿の事は残念。後藤芳景君へ別紙(3葉、 御伝達祈り上げる。御令妹御死去残念。貴 兄当地にて開業の御志有る由、御申越あれ ば御補助す。

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
149	〔書簡〕	道正 / (副 島道正)	〔東京府 下豊多摩郡 千駄ヶ谷村 原宿〕	大沼先生 / 大沼鶴林殿	／牛込区 笹町32番 地	6月21日	1通	24.2 × 64.8cm (封 筒21.2 × 15.5cm)	封筒を付す。封筒の差出人氏名・住所は印刷。同月22日付消印あり。楠井三郎朱書「蘭島書簡」とあり。【内容】25日錦輝館演説会にははばい出席弁士少なく一同閉口。明日老父の名刺持参、湯本武比古氏へ兄より御依頼下され間敷や、毛に病人多く他出し難し。片瀬氏にも三浦子、杉浦氏等を訪問する様依頼。
150	〔詩稿〕	小菅揆					1枚	22.6 × 25.8cm	末尾に「右七絶五首題詩海問津并正香郎小菅揆初稿」とあり。楠井三郎朱書「小菅香郎詩稿」とあり。【内容】「題詩海問津」【作成者補】小菅香村
151	〔書簡〕	渡辺滋		大沼嘉年様		1月27日	1通 (2 枚) 合1 枚	24.6 × 36.3cm (合 1枚) (合 装前) ①24.6 × 19.2cm ② 24.1 × 19.2cm)	〔文部大臣認定私立東京裁縫女学校〕用箋使用。【内容】明日御案内下さざる如く親族中に渡米する者有り、小生横浜まで見送る約束。不本意ながら火席、御師承願い上る。愚妻も病癒中。【参考】財団法人私立東京裁縫女学校は明治44年設立。大正9年財団法人東京裁縫女学校に改称。
152	〔詩稿〕	大沼鶴林 善				壬寅元旦 (明治 35年1月1日)	1枚	25.0 × 33.3cm	鶴林の求めに応じ嵩古香を加えたもの。書入れ未だ「壬寅元旦古稀自詠」(末尾に「七十翁古香居士拜撰」とあり)を付す。楠井三郎朱書「鶴林詩稿」とあり。【内容】漢詩「壬寅元旦書懷」新年梅。
153	〔詩稿〕	碩果南条 文雄					1枚	24.7 × 33.4cm	大沼鶴林朱筆書入れあり。楠井三郎朱書「南条文雄詩稿」とあり。【内容】漢詩「三月四日侵風雨發東京到下野八条本誓寺翌日朗晴賦似寺主笠并氏」三月六日福高田山下三首「三月六日与小栗輜連船老健脚車走不止館街余大声呼之而脚不知車走不遂不能隨護会于金沢因得一絶句」(題南条氏之前庭)。【参考】詩は『碩果詩草』下巻96丁表から97丁表 (明治32年部分) に掲載。

154	〔詩稿〕	高古香					1枚	24.1 × 32.7cm	梅莊三郎朱書「高古香詩稿」とあり。「古香書室藏」用箋使用。高古香による。書「此二録又小如、癸二明治廿一年十一月十二日枕天子評定ヌル所、今日午後二郵着セリ、梅新稿ユヘ一察ニ供シ奉ル也 古香」とあり。【内容】漢詩「説蓮唱和詩」「黒田如水翁」【雜興】「寄薩高岳先生」「西行師」。
155	〔詩稿〕	結城嵩堂 琢					1枚	24.8 × 33.3cm	梅莊三郎朱書「結城嵩堂詩稿」とあり。【内容】漢詩「寄石田石仏在台湾五首」。
156	〔詩稿〕	小山朝弘					1枚	24.3 × 33.2cm	本文末尾に「明治己丑十月日本後学小山朝弘敬識」とあり。梅莊三郎朱書「小山春山詩稿」とあり。【内容】漢文「書景唐刊卷子本陶文後」【作成者補】小山春山
157	〔書簡〕	甚六	大沼先生皆 様		明治 35 年 12 月 22 日		1通	22.5 × 12.5cm	梅莊三郎朱書「久米甚六書簡」とあり。【内容】年内は非常の御厚意を蒙り有難く御礼申し上げる。【作成者補】久米甚六
158	〔書簡〕	甚六	大沼先生皆 様		明治 36 年 1 月 1 日		1通	22.5 × 12.5cm	梅莊三郎朱書「久米甚六書簡」とあり。【内容】年内は非常の御厚意を蒙り有難く御礼申し上げる。御超感遊はされ恭賀の至り。【作成者補】久米甚六
159	〔書簡〕	中川寛	大沼先生皆 様 大沼鶴林様	東京牛込 区重高町 32 番地	明治 31 年 4 月 3 日		1通	23.9 × (封 筒 19.5 × 14.6cm)	封筒を付す。封筒は本紙上に貼付。年は消印による。同月 4 日付消印もあり。社則【内容】雅正吟社入社任りたりし。御通報成し下されたく郵券封入。
160	〔書簡〕	勘三郎・甚 六	大沼先生閣 下		12 日		1通 (2 枚合 1 枚) 24.1 × 52.8cm (補 修前)① 24.1 × 33.1cm ② 24.1 × 21.6cm)	梅莊三郎朱書「久米父子ノ書簡二枚」とあり。作成者は梅莊三郎朱書により補う。【内容】旅中近況報告。午後 7 時半上野発の列車にて上野高輪に向かい、午後 11 時到着。4 日午前 9 時名 (マ) 義町へ到着。助義山登山。諸岳岳に奇を争い壯を競う。濃に向かい小諸町へ到着。高橋先生の御様子伺う。和田峠を越え下諏訪泊。翌日は下葛木泊。10 日午後甲府市に到着。富岡敬明邸を訪問。先月より病気の田、男優記氏心接、非常の寛心。降雨にて一日滞留。本日より富品登山。17 日頃は帰京する運び。【作成者補】久米勘三郎・甚六	
161	〔書簡〕	土井利与 家扶	大沼嘉年様		明治 24 年 12 月		1通	18.2 × 34.3cm	年は内容による。【内容】旧先生存世中御世話成さるるに付。当年銀金 3000 疋、度々御上ケ物御挨拶金 1000 疋、右歳暮に付、御贈り申し上げ。【参考】大沼枕山は明治 24 年没。

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
162	〔書簡〕	操		大沼様		11月14日	1通	17.4 × 61.6cm	年は内容による。【内容】老先生御病氣伺い、御菓子料金1匁遣わされる。兼ねて本邦人御投与下され有難き仕合せ。兼ねて本邦人文集甲、雄壮の文章の田承り居り、求め度々如ゆえ別して有難し。老先生手沢の『栗葉文』を拝読、拙文に色を加える儀もあらば、2先生の冥助と存す。
163	〔詩稿〕	柳所田口 興治				(明治24年)	1枚	23.5 × 11.5cm	年は内容による。楠壮三郎朱書「田口興治詩」とあり。【内容】漢詩「栗枕山六沼先生」【参考】大沼枕山は明治24年没。
164	〔書簡〕	西村茂樹	／東京府南 葛飾郡寺島 村1826番 地	大沼鶴林殿 ／大沼善次 郎殿	／牛込区算 高町32番 地	(明治30年)9月 19日	1通	18.2 × 37.2cm (封 筒 19.4 × 14.5cm)	年は内容による。封筒の差出人氏名・住所は印。【内容】海軍子弟の教育に従事する由、御尽力希望。真著『論語読本』御投与を忝し。拙著『国民訓』進上『論語読本』生遺選の義、御気の請。【参考】『論語読本』『国民訓』ほとにも明治30年刊。
165	〔書簡〕	金洞		西川様		12月24日	1通	24.3 × 32.8cm	【内容】大部分は、大沼枕山著「金洞詠物詩鈔序」(末尾「明治辛卯長夏枕山書」)の写し。末尾に「御申趣の枕山語話或は函(マ)と。語は名目のみにて認めす。愚老手許に有る序文のみ差し上げる。外に是ぞと申す逸事もなし。」とあり。【参考】明治辛卯は明治24年(枕山没年)。大沼鶴林は前年婿入り。旧姓西川。
166	〔書簡〕	秋/月種樹		鶴林先生		5月27日	1通	18.0 × 50.8cm (封 筒 23.4 × 15.5cm)	封筒を付す。封筒差出は「相州片瀨 秋月種樹、宛所は「東京市牛込区矢来町3字山里、大沼鶴林殿」封筒日付は「黃年一月五日」(消印日付は明治35年1月5日・6日)寸法は23.4 × 15.5cm。書状とは別の時期のものであるが、重ねて貼付されていたことから、本書簡に付されたものとして扱う。【内容】最良冒病にて橋本先生へ診断を、受け胃腸病院へ通う。29日頃東京へ参り、病室未定。大学へ勉強の生徒10中5、6は病氣、困り入る。大字は尊ら暗記させ封筒を損う。別筆不出来、御笑扱え。
167	〔書簡〕	東久世/ 東久世家	／麻布本村 町	大沼殿/大 沼鶴林殿	／牛込区算 高町33(マ マ)番地	(明治32年)12 月15日	1通	18.5 × 25.5cm (封 筒 25.1 × 16.9cm)	封筒を付す。年は消印による。【内容】御所望の額番号168の後に貼付。【内容】封筒は細目字2通認め、指出す。



168	[封筒]	／東久世家	／〔麻〕 本村丁	〔大〕 沼鶴 林殿	／〔市〕谷 仲ノ町97 番地	22日	1通	13.4 × 12.9cm	封筒のみ。破損。
169	[書簡]	□□		大沼先生		16日	1通	16.1 × 52.8cm	【内容】 未だ歩行深感、脇坂公御尋ねも遊ばざされ兼ね、御容体御尋ねこの程中は昏睡、昨日は精神頓れ痛痒の演説も成さざる由、此の度は御大患、善悪とも御注進申し上ぐべし。御心意小子より申し進らばし。
170	[詩稿]	長安堂主					1枚	19.2 × 12.2cm	楠木荘三郎朱書「長安堂」とあり。【内容】漢詩「自題長安堂壁」。
171	[詩稿]	小山朝弘					1枚	16.8 × 62.1cm (旧 台紙裏朱書 切版 18.1 × 3.9cm)	「甲戌」と朱書あり。楠木荘三郎朱書「小山」とあり。旧台紙裏に楠木三郎朱書「第一巻断□□□」とあり。【内容】漢詩「王子旗亭歩大丞公玉礎呈那須参事」「大丞公命那丹藤那須君鵬京妓張舞延故句中及之。【参考】 小山春山の生没年(文政10年生、明治24年没)により「甲戌」は明治7年か。【作成者補】 小山春山
172	[書簡]	□居		積信の姉		[安政3年10月 頃]	1通	17.5 × 50.7cm	和歌1首を添える。【内容】 積信院親族のいみじき看病いたし下され、かんじ入る朝夕のたむけたのむ。枕山家内のことは積信のここちろりに及ぶ。【参考】 大沼千早氏に遺物かはれば積信院は枕山の妻女。積信院遺大姉。弘化4年枕山と結婚、安政3年(1856) 9月晦日没。
173	[書簡]	大沼		枕山老先生		5月11日	1通(2 枚合1 枚)	15.8 × 39.9cm (補 紙含む、各 紙① 15.8 × 8.1cm ② 15.8 × 29.2cm、 楠木三郎朱 書 17.8 × 3.7cm)	朱書書入に「陽春煙景好」等とあり。楠木三郎朱書「此ノ朱書ハ枕山ノ手跡也。橋出人ノ大沼トアルハ本多家ノナルベク」とあり。【内容】 御不快の様、早く御様子伺うべき処、誠に延引、御寛恕下さるべし。日御様子伺いたし。一同御案じ申す。

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
174	[書簡]	八瀬		大沼の内の もの			1通	16.4 × 54.5cm (楠 三郎朱書 17.9 × 18.1cm)	前欠。楠三郎朱書「此手紙之筆者八瀬トセル人ハ此巻物ノ初ニ帖リ付タル積信院師哉。或ハ積信院ノ美母ヲモテアラム平。此ハ瀬トハ御名殿向ノ名ナリト、特ニ註書メテ上リ「又大名乎用シ」翌年家譜セル趣鳥渡此手紙ニ其当時ノ模様被伺申ハカトあり。【内容】「氏家のつとめにせぬやうに」 「そなたの万請もあらざりといわれ桂村へ万々たひ合のううへと今よあんしか先立こ」とに候」
175	[書簡]	□□		金洞上人		8月21日	1通	17.2 × 45.3cm (楠 三郎朱書 18.2 × 2.8cm)	楠三郎朱書「此の書ノ宛ハ枕山□□申直々弟子ノ金洞上人御侍者トシテ有リマヌ、差出人ノ名読メマゼン、御知ラセ下サシ」とあり。【内容】尊集の序文直し出来。
176	[書簡]	[欠]		[欠]			1通	15.6 × 36.8cm (楠 三郎朱書 19.0 × 13.9cm)	前・後欠。楠三郎朱書「此ノ貞助ト申ス人ハ二尊著ニ依レハ、穀堂先生ノ父ニ當リ、三ニ歳カトモ被考者ニ候、既ニ其当時八十一歳ノ高輪ノ方ナレバ其人トモ考ヘラレズ、枕山先生ハ才トアリ姉(ママ)父ハ竹溪先生ヲ指スガト被存、典ノ兄弟ノ内、或ハ貞助ト申セシ人無カリシ乎、疑問ニ付先生ノ御高説拜聴致度候ト申す物、尼トナリ、枕山先生ト誦ニしん身のいじこかか。枕せつ15、6才の時、御目にかか。先生に成るとり、日本にたれたらんに物もなし。拙も今年は81に成る。
177	[書簡]	重礼ノ島 田重礼	小日台 町1丁目	大沼大雅ノ 大沼鶴林殿	市ヶ谷仲ノ町47番 地	明治24年)6月 2日	1通	18.3 × 58.1cm (封 筒 18.0 × 13.9cm)	封筒を付す。年は消印による。【内容】御内情御察、学智院の儀は既に小林某取候めに成り、当分先ず確定の有り。此簡は何分事は当分御断念然るべし。御事は何分重要の場所之に乏し。雑誌1冊御惠贈、大謝。
178	[書簡]	巽来次郎		大沼先生		12月14日	1通	18.1 × 41.3cm	【内容】中庸素読より御再教仰ぐ。

179	[書簡]	国武/渡辺 国武	麻布本所 町	大沼鶴林殿 君 大沼鶴林	生込区筆 筒町	明治32年(明) 8月10日	1通	17.9 × 55.9cm (封 筒 19.4 × 14.5cm)	封筒を付す。年は内容による。鶴林「帝 国青年会幹事」。(内容)御示論の旨承知 昨来平順。3日(マ)も立(マ)ては平常に 復す。其の上御一報申し上げる。【参考】 帝国青年会は明治32年設立。
180	[書簡]	坪内雄蔵	生込大久 保余丁町 112	大沼鶴林様	生込北町 1番地	(明治30年3月) 11日	1通	18.3 × 84.2cm (封 筒 23.3 × 14.6cm)	封筒を付す。年月は消印による。【内容】 貴人望みの件。生憎目下は阿校とも既に役 割をましまし、漢文学の科は従来の講師の時間 さへへ余る為体、只今のところは如何とも致 方なし。
181	[書簡]	やじ/品 川歌二郎	京都高倉 錦小路尊攘 堂	大沼様/大 沼鶴林様	生込区筆 筒町32	(明治)33年1月 14日	1通	17.7 × 145.1cm (題 字 24.5 × 33.6cm、封 筒 23.8 × 18.5cm、日 台紙裏朱書 切版 13.8 × 3.0cm)	題字草稿「通于道深于学/明治三十三年一 紙/尊攘堂主人やじし、封筒を付す」。旧台 紙裏に梅莊三郎朱書「林 □春一」とあり なり。【内容】片漕の事は行れぬが残念 之も在申中は貧乏性の御方々、初願して 申す者不能。可(行)而後(言)非(後)言(者)不(非)能 と申す語を讀了りし時、既に認め る。先師松陰は山鹿素行先生の学脈を尊奉、 兵学・教学とも山鹿先生の遺志を継ぎたる 事御しるし下されれば先師も地下にて悦ば る。此の段頼む。仰がれたる事を近思、阿京 師の大学にても山鹿素行の事を知れて、佐々木 様着『御国之花』第1編(佐々木様、明治 33年)題辭は類似。
182	[書簡]	海江田幸 吉	廻町区番 町東郷邸	大沼先生/ 大沼鶴林様	生込区生 込北町2番 地	(明治41年)12 月13日	1通	17.8 × 142.7cm (封 筒 21.5 × 16.7cm)	封筒を付す。年は消印による。【内容】第1 番の勝訴を得、母始め一同一先す安心。御 祝状忝し。瑣毫の事は当年中は取り込み居 り、明年に成るやと計り難し。
183	[書簡]	秋月種英	相模国片 瀬	大沼鶴林先 生/大沼鶴 林様	東京市牛 込区生込北 町2番地	(明治41年11月) 12日	1通	18.3 × 80.8cm (封 筒 20.4 × 13.7cm)	封筒を付す。年月は消印による。同月13 日付消印もあり。【内容】御厚意有難し。 御話の手簡類多少有り、目下保存の分多少 有る共、此と申す程の事、当地には無し。 少年時代を懐え、今昔の感、海江田君 には京都に於いて面会。
184	[書簡]	藤沢南岳	自坂泊 園書院	鶴林詞兄/ 大沼鶴林様	東京牛込 区筆筒町 32番地	(明治32年)5月 仲日	1通	16.8 × 27.3cm (封 筒 20.1 × 15.0cm)	封筒を付す。封筒は5月12日付。消印は 同日付消印も有り。年は内容による。【内 容】今般青年会加盟の事承知。金銭は貧生 の任に非ず、御断。文責等の輔佐は致すべ し。【参考】帝国青年会は明治32年設立。
185	[書簡]	新太郎	[欠]	[欠]	[欠]	11月9日	1通	17.0 × 18.1cm	朱筆。【内容】貴者拜見。間に合わせの題 辭認める。御用立て候は幸甚。

請求記号 番号	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
186	[書簡]	石橋雲来	／〔大阪北 浜2丁目〕	蓑林大沼詞 兄／大沼鶴 林先生	／東京牛込 区笹冓町	(明治27年)12 月16日	1通	15.7× 45.1cm (封 筒19.8× 15.2cm)	封筒を付す。封筒の差出人氏名・住所は印。 封筒日付は1月4日付。年は消印による。 消印は28年1月4日付。5日付。(内容)藤 沢より転致の芳翰拝読。『詩海問津』発兌 につき、古詩なりと作るべき様御趣、御笑正 に付、2絶を賦し、題詞1篇試す。冊子出 来の上は必ず1冊申し受ける。
187	[書簡]	海江田信 義	／荏原郡玉 川村字瀬田	大沼鶴林殿	／牛込区笹 冓町32番	(明治33年)2月 1日	1通	17.4× 38.6cm (20.0 ×14.0cm)	封筒を付す。年は内容による。【内容】今 般『御国の花』と題する人傑の伝記出版 なきを遺憾とし、題字認むべき御申し入れ 如筆差し上げる。【参考】『御国の花』(明 治33年8月刊)については請求記号枝番 181参照。
188	[画稿]	大沼甲	／大沼甲				1枚	27.6× 39.3cm	楠莊三郎朱書「画菊」とあり。【作成者補】 大沼甲は長谷部甲子(鶴林次女)。
189	[漢詩]	南岳					1枚	22.8× 12.3cm	楠莊三郎朱書「南岳詩」【内容】漢詩「自 辛録似鶴林兄」。【作成者補】藤沢南岳
	[書簡]	南岳／藤 沢南岳	／大坂	鶴林詞兄／ 大沼鶴林様	／東京牛込 区笹冓町 32	(明治32年)7月 12日	1通	20.3× 15.1cm (封 筒21.3× 15.0cm)	封筒を付す。年は消印による。【内容】『書 年合甚』1本拝受。小生は青年の方嚮を失 う多きに至り、長嘆息。此会幸いに之を救う。大 に尊文の世教を禱するものあり。自筆の作に 詩評を得て、小生の心事を大に世に表すを 得たり。請求記号枝番190・192と同一用 箋を使用。
190	[詩稿]	[南岳]					1枚	20.4× 15.1cm	請求記号枝番192へ続くものか。作成者 は請求記号枝番192による。請求記号枝 番189「書簡」・192と同一の用箋を使用。 楠莊三郎朱書「南岳書」【内容】漢詩「訓 蒙絶句五十首節五」。【作成者補】藤沢南岳
191	[封筒]	／藤沢南 岳	／白坂府泊 園書院	／大沼鶴林 様	／東京牛込 区笹冓町 32番地	(明治30年)3月 2日	1枚	18.8× 15.0cm	封筒のみ。年は消印による。同月3日付消 印もあり。
192	[詩稿]	南岳					1枚	20.4× 15.1cm	190(漢詩3首記載)から続くものか。 189「書簡」190と同一の用箋を使用。 楠莊三郎朱書「南岳書簡(マヅメ)」【内容】 漢詩(漢詩2首記載)。【作成者補】藤沢南 岳
193	[封筒]	／藤沢南 岳	／坂府泊園 書院	／大沼鶴林 様	／東京府牛 込区笹冓町	(明治30年)1 月6日	1枚	23.0× 16.4cm	封筒のみ。年は消印による。同月7日付消 印もあり。

194	〔詩稿〕	〔大沼枕山〕				1枚	24.7 × 33.7cm	楠莊三郎朱書「枕山七夕詩」とあり。作成者は楠莊三郎朱書による。【内容】漢詩「七夕偶作劫」。
195	〔書簡〕	〔大沼甲子〕	〔欠〕			1通(2枚) 合1枚	24.1 × 98.0cm (補紙含む。各紙① 24.1 × 65.0cm ② 24.0 × 33.0cm)	楠莊三郎朱書「甲子書簡」とあり。作成者は楠莊三郎朱書による。途中欠。【内容】撰生が第一のまもるべき事です。途申。【内容】肝要ですけれどもあなたら身体や心を使ひすぎでは反つて「過ぎたるは及ばざるか如し」になります。何事も中庸を取つていらつしやい。「都の中にいる私さえ世をのがれた法師と同じ事、この五月から十月まで外出も出来ないのですもの、あちゆる職難と戦つて居ります。みんな天が私をためすのだと思つて居ります。一日家事やあねの裁縫の手伝へをして告たびれた身体を十一時まで毎夜机に向ひます。あちゆる苦を一切わすれて勉強いたします。其の間が私のためには極楽でせう」「なミたのこほれるやうな事がありません。一冊の本さへ百に一度のしめ思つて居ります。ただ残念なのは学費の少ない事です。一冊の本さへ百に一度買ふ事が出来ません」「あなたのお困難なのを毎月私に学費金を出して下さいませんか。一円でも二円でもかまいません。日必ず其の報酬は致します。如何な事かありまして他人の世話にはならないつもりです。他人の力によつて致しました学問は後日のさまたげです。反つて無学の方がましです。【参考】受信者は楠莊三郎か。大沼甲子は鶴林次女。

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
196	〔書簡〕	甲子		莊三郎様		7月11日	1通	24.1 × 51.5cm	梅莊三郎朱書「甲子書簡」とあり。【内容】第一に「御健康なるを御しこひ申上候。今更ななからも御満足の事と御さつし申上候。久候様にはおのり（ママ）切になされ度、人よりのあつかりもの（ママ）の誠心をもちて御たすけ遊され大抵（ママ）の事は御恐福の事第一にて候。」「凡てあなた成功をまつ人の安心されるやうにに御つとめなされ候やう事情は御推さつ下さいは学校ヲやめましな事もありまが、若い身であつて少しく決りなす、何とぞ私に勉強いたす事も致しかねます、下さい。只今では学ぶ秀でると云ふ事だけか私の命です。【参考】受信者は梅莊三郎か。【作成者補】大沼甲子（鶴林次女）
197	〔詩稿〕	嘉年女史					1枚	26.0 × 32.6cm	大正3年作。絹本。梅莊三郎朱書「嘉年女史詩落花」とあり。【内容】漢詩「甲寅初夏嘉年女史」。【作成者補】大沼嘉年
198	〔詩稿〕	厚					1枚	29.7 × 43.3cm	梅莊三郎朱書「枕山書詩」とあり。【内容】漢詩「夏山題画図」。【作成者補】大沼枕山
199	〔詩稿〕	嘉年					1枚	31.3 × 23.6cm	梅莊三郎朱書「大沼嘉年詩菅公」とあり。【内容】漢詩「菅公」。【作成者補】大沼嘉年
200	〔詩稿〕	厚					1枚	27.3 × 20.0cm	【内容】漢詩「得支駒」。【作成者補】大沼枕山
201	〔詩稿〕	塩田弦				(明治24年)	1枚	27.9 × 37.5cm	年は内容による。梅莊三郎朱書「塩田弦詩」とあり。「康斎、重弘、政三郎、伊勢津藩儒、安政中江戸に住み」と銘書添書あり。【内容】漢詩「哭詩」（大沼枕山追悼）。【参考】大沼枕山は明治24年没。【作成者補】塩田廉齋
202	〔文稿〕	晴広齋藤		枕山老先生			1枚	31.5 × 54.4cm	梅莊三郎朱書「晴広 枕山アテ」とあり【内容】漢文

203	[文稿]	枕山六沼厚				千申 (明治5年) 速巳月	1枚	31.5 × 65.1cm	梅莊三郎朱書「枕山書 林斎アテ」千申連巴月」とあり。【内容】漢文「颯山陽林谷三翁月瀬觀梅詩画卷後爲林斎長兄」。
204	[書簡]	南摩綱紀	大沼嘉年様 大沼嘉年殿	大沼嘉年様 大沼嘉年殿	大沼嘉年様 大沼嘉年殿	(明治28年) 12月17日	1通	16.8 × 10.2cm (封筒) 18.6 × 14.5cm	封筒を付す。封筒の差出人氏名・住所は印。内容は消印による。【内容】贈物を辱し御厚志の程拜講。御垂示の高文拜読、愚見書き加え、返上。
205	[詩稿]	[欠]					1枚	18.1 × 14.5cm	【内容】朱書「大沼鶴林先生作詩」とあり。
206	[詩稿]	[久保]					1枚	21.5 × 40.0cm	梅莊三郎朱書「久保詩」とあり。作成者は梅莊三郎朱書による。『忠魂義胆武道の書』(精華堂書店)カノペー裏紙使用。【内容】漢詩「馬関」金泉「倭館」。
207	[書簡]	笠井生	[欠]				1通	24.2 × 33.2cm	朱書「明治年間歴史画師笠井鳳齋先生書簡使者令女筋子殿ヨリ受ク」とあり。【内容】宋景石伝記(古今人物志「墓所一覽」より紹介)。貴重なる御重物御負与下され結構に拝見。【作成者補】笠井鳳齋
208	[画稿]	(半湖)					1枚	32.7 × 24.2cm	梅莊三郎朱書「半湖画」「童子」とあり。作成者は梅莊三郎朱書による。【内容】童子の絵。
209	[書簡]	道	大沼先生			正月13日	1通	15.9 × 47.2cm	【内容】御添削の文章持たす。御覽下さるべし。尺牘云々として閑するや尺牘即ち如意宝亭の記の如くに聞こえ申す。御勘考下さるべしと結ぶは、蘭圃泉二公書、御熟覽十分に直し下さる様願ひ上げ。
210	[漢文]	若圃老人				明治癸巳(明治26年) 依霜節	1枚	18.2 × 38.6cm	文頭「跋」、文末「明治癸巳依霜節 末若圃老人撰併書」。文書頭に「詩海問津跋」(脇に「カンボウハ御遊月願」と朱書)、と朱書。書末尾に「茗圃六十六翁撰併書」とあり。此方可相成ハ願上候」と朱書)とあり。梅莊三郎朱書「茗圃」【内容】跋文「詩海問津跋」。【参考】「詩海問津」は請求記号枚番 186 も参照。
211	[書簡]	此華	大沼先生			巳年	1通	17.5 × 21.0cm	【内容】拙作御一閱願う。
212	[書簡]	葵/小菅香耶	鶴林君/大沼鶴林君	東京市牛込区草苅町36番地町蘇教会ノ向	東京市牛込区草苅町36番地町蘇教会ノ向	乙未 (明治28年) 2月16日	1通	16.1 × 38.9cm (封筒) 20.8 × 14.2cm	封筒を付す。同月20日付消印もあり。【内容】客年厥兒妙齡近き身を以て没す。傷心の文にミミにて半年を経過ぐ。文思も不熟。此の頃移居の後、諸君へもよろしく。以後は随分至急拝見。
213	[書簡]	秋月種樹	鶴林先生/大沼鶴林先生	播磨国加東郡西村斯波氏邸止宿	鶴林先生/大沼鶴林先生	11月1日	1通	17.2 × 40.2cm (封筒) 21.6 × 14.5cm	封筒を付す。【内容】播州行に付、明石へ御遊の件、御周旋下さるべし。何れ高三日中漫遊の續り。

請求 記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
214	〔書簡〕	庫三 / 古 田庫三	／神奈川県 立第二中学 校	大沼様 / 大 沼善次郎殿	／東京牛込 区矢来三山 里	〔明治34年〕12 月5日	1通	17.6 × 84.0cm (封 筒 21.8 × 15.6cm)	封筒を付す。封筒肩書は「大沼義塾女主人」 年は消印による。消印は同月6日付。【内容】 今月は多忙に由り、年末歳始は当地にて遊覧、 自宅は青山原宿 200番地。相取は議會開 会中のみ在東京の宮、其の宅は赤坂新坂町。 尊示有英御奮勵の事、建の宅には知人多 し。貴殿は山里の何号や。
215	〔書簡〕	石渡 / 石 渡敏一	／京橋区越 前堀 2丁 目 4番地	大沼か称様 ／大沼鶴林 様	／下谷区上 野花園町 15番地	〔明治23年〕11 月27日	1通	17.3 × 45.0cm (封 筒 18.2 × 12.6cm)	報筒を付す。年は消印による。【内容】官 報筒には及人をも未だ聞かず。此の 方より御報申し上げ。頂戴物仕り有難 く御礼申し上げます。
216	〔書簡〕	不破省三		大沼先生		10月10日	1通	15.9 × 70.1cm	【内容】金1円2分御菓子料金 200 御謝 儀禮に拜請。従来病気の処、9月27日乾 震乱にて吐瀉無く俄に大腹痛。終日粘汗流 出手足厥冷、脈沈微に到る。2日程絶食、 3日より漸の湯を始て飲む。今日は快を覚 え、炊乾しの飯を食す。
217	〔書簡〕	行齋		大沼老先生		〔明治21年〕6月 1日	1通	16.9 × 65.5cm	年は内容による。【内容】過日は『月波楼集』 製本御米、万事御手数に添り奉請。5部は 御引取りの赴 (ママ)、承知。製本與附認め の方のみ付、此の箱内務省図書致す。私 方へ御達し有り、御改めの上頒布致す。べき 旨、命ぜらる。尚 『月波楼集』製本美 (ママ) 事に出来。音難し。先生の意文、認めの措 書妙に存す。【参考】『月波楼遺稿』の刊行 は明治 21 年 5 月。【作成者補】坂野行齋
218	〔書簡〕	甚六		大沼先生		明治 37 年 1 月元 旦	1通	18.0 × 46.0cm	【内容】年賀状。【作成者補】久米甚六
219	〔書簡〕	頭生 / 鬼 頭生	／〔東京市 神田区小川 町 37番地、 弁護士法学 士高木正次 法律事務所〕	大沼先生 / 大沼鶴林先 生		〔明治40年〕10 月12日	1通	18.1 × 108.3cm (封 筒 21.6 × 16.8cm)	封筒を付す。封筒の住所は印刷。高木正次 法律事務所封筒使用。年は封筒に「明治 四十年」と印刷があることによる。【内容】 高橋洗手拝読。御遺書を蒙り汗顔の至に存 す。固より精衛の痼疾を尽くす迄にて 世間の氣に入らざるは覺悟の前。御優旨を 拝し時に感激に堪えず。
220	〔書簡〕	片淵琢		大沼鶴林先 生 / 大沼鶴 林様	／牛込区筆 高町 32番 地	〔明治32年〕8月 8日	1通	16.7 × 105.7cm (封 筒 20.8 × 16.5cm)	封筒を付す。年は消印による。【内容】小 生、今夜終列列車にて関西地方へ向う出奔に 決定し、御承引下さされた。原稿、困難多 に苦しむ。大兄にも御助力下さされ た。文苑欄は君に任願し申し。副 島幹事長は昨夜御出発、御承引下さされたし。



221	〔書簡〕	棚橋一郎	／本郷丸山 新町 17	大沼鶴林先 生／大沼鶴 林殿	／牛込区筆 筈町 32	〔明治 32 年〕 9 月 5 日	1 通	18.3 × 58.6cm (封 筒 21.0 × 15.9cm)	封筒を付す。年は消印による。【内容】御 申し越しの各は敬承、先輝無く依頼 あり、小生が會て教授を受ける。折角の芳 志現今、の処は御断り申したし。何れも折節 お願ひ申上げたし。学校に於いては、 委託等あり。異日御苦労願う。
222	〔書簡〕	秋月種樹	／〔相州片 瀬〕	鶴林先生／ 大沼鶴林殿	東京牛込矢 来町 3 字山 里	1 月 5 日	1 通	18.4 × 35.2cm (封 筒 22.9 × 15.8cm)	住所は印。封筒を付す。【内容】『漢学知要』 御重投下され有難し。漢文は近日甚不自然滅 亡に相成、必竟漢文を知る者無き故、所詮行 わねばならずと考う。斯文の為に御尽力感し 入る。
223	〔書簡〕	秋月種樹	／相州片瀬	鶴林先生／ 大沼善次郎 殿	／東京牛込 矢来町 3 字 山里西 4 号	〔明治 37 年〕 1 月 23 日	1 通	18.0 × 43.6cm (封 筒 22.0 × 15.6cm)	封筒を付す。年は消印による。【内容】日 高謙太は東京へ住居出来ず、文章の事 添削には無く月に 1 回つ社説を起草の事 と伺う。今一応御間合い合せ申す。日高の 字力を以て仙居は残念。先日文章、学院より 挨拶申来たる。汗顔に愧さざる様、実功を奉 げたし。
224	〔書簡〔葉 書〕〕	〔中根半 藏〕	〔下谷区上 野西里門町 4 番地〕	大沼嘉年様	牛込区筆筈 町 32 番地	〔明治 29 年〕 9 月 22 日	1 枚	14.1 × 9.0cm	年は消印による。【内容】二男養生叶わず 過る 20 日死去。本日午 1 時本郷元町 2 丁目等正寺送葬、板木云々の御答申し上ぐ べきの処、混雑申す。少々御猶予を願う。
225	〔書簡〔葉 書〕〕	〔鶴津精一 郎〕	〔下谷区竹町 4 番地〕	大沼かね子 様	牛込区筆筈 町 32 番地	〔明治 3 □年〕 8 月 5 日	1 枚	14.1 × 9.0cm	年は消印による。切取り部分あり。【内容】 横井忠直氏遺書(篤津数書)遺書借覽を 望むに御越されたるも、遺書整理中にて眞 の面目は他に一切出さざる事と定む。御所 望にそむき御氣毒。此の段同氏へ御伝え下 されたし。
226	〔書簡〔葉 書〕〕	〔中根半 藏〕	〔下谷区上 野西里門町 4 番地〕	大沼嘉年様	小石川白山 前町 81 番 地	〔明治 27 年〕 7 月 4 日	1 枚	14.0 × 9.1cm	差出人氏名・住所は印。年は消印による。【内 容】近辺御通行の御序あらは御過端下され たし。
227	〔書簡〔葉 書〕〕	〔島地黙雷〕	〔中六番町 6 番地〕	大沼嘉年殿	牛込区筆筈 町 32 番地	〔明治 29 年〕 11 月 28 日	1 枚	14.0 × 9.0cm	年は消印による。消印は同月 29 日付。【内 容】来る 30 日、止女精進法尼初七日法事、 庵斎差上、御苦勞年ら午前 11 時御来軍下 されたし。
228	〔書簡〔葉 書〕〕	〔中根半 藏〕	〔下谷区上 野西里門町 4 番地〕	大沼鶴林様	牛込区牛込 北町 2 番地	1 月 1 日	1 枚	14.1 × 9.0cm	差出人氏名・住所は印。印で「恭賀新年」、 墨書で「一月一日」とあり。【内容】年賀状。
229	〔書簡〔葉 書〕〕	〔藤沢桐之 助〕	〔信州上水内 郡柳原村大 字小島〕	大沼嘉年様	東京小石川 区指ヶ谷町 53 番地故 大沼枕山翁 令女	〔明治 36 年〕 10 月 3 日	1 枚	14.2 × 9.1cm	年は消印及び内容による。同月 4 日付消印 もあり。【内容】去る 1 日、翁の忌辰十三 日に正當、翁の御揮毫の軸多数集め梅花を 挿げ麗女敷く勤む。翁の御肖像、1 萬御送 附下されたし。【参考】大沼枕山は明治 24 年没。

請求 記号 番号	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
230	〔書簡(葉書)〕	〔中根半嶽・中根半嶽〕	〔東京下谷区西黒門町4〕	大沼鶴林様	牛込区北町2番地	1月2日	1枚	14.1 × 9.0cm	差出人氏名・住所は印。【内容】年賀状。
231	〔書簡(葉書)〕	〔坪内雄蔵〕	〔東京市牛込区大久保余丁町112番地〕	大沼鶴林様	牛込北町2番地	丁未4日(明治40年1月4日)	1枚	14.1 × 9.0cm	印刷。【内容】年賀状。「丁未四日」と墨書。
232	〔書簡(葉書)〕	〔秋月種樹〕	〔相州片瀨〕	大沼鶴林殿	東京牛込区甲良町25番地	〔明治35年〕6月27日	1枚	14.0 × 9.0cm	差出人氏名・住所は印。年は消印による。同月28日付消印もあり。【内容】尊嘱の拙跡早速成功、送致。先日來上京、一昨日婦科。大いに延引、恐懼に堪えず。
233	〔書簡(葉書)〕	〔石川二三造〕	〔下谷区三輪町8番地〕	大沼鶴林先生	牛込区矢来町3番地山104号	〔明治34年〕12月24日	1枚	14.1 × 9.1cm	【内容】成るべく來春御光來願う。正月報事、近火の折散逸、断片と成り、取り集めざれば急に間に合いません。今函に宜しく御鳳声申されたし。
234	〔書簡(葉書)〕	〔石川二三造〕	〔下谷区三ノ輪第8番地〕	大沼鶴林先生・大沼芳橘先生	牛込区矢来町山郷104号	壬寅(明治35年)元旦	1枚	14.1 × 9.0cm	印記「石川」【内容】年賀状。
235	〔書簡(葉書)〕	〔宮本小一〕	〔巢鴨〕	大沼善次郎殿	牛込区矢来町3番字山里大沼義塾二面	〔明治34年〕11月18日	1枚	14.2 × 9.0cm	年は消印による。【内容】拙家病人有り、取り込み、尊來も御目に懸り難し。
236	〔書簡(葉書)〕	〔高橋泥舟〕	〔越後中頸城郡高田柳原郷〕	大沼鶴林殿	東京市牛込区京高町32番地	〔明治26年〕8月17日	1枚	14.0 × 9.1cm	年は消印による。【内容】地蔵堂へ御漫遊の由、当地の景況子細致す。遊歴も一と通にては莫だ六ヶ敷き由。書画家の雅人、当高田にも2、3人位はいはいも、滞留致す。由。一両日中当地出發、直江津へ滞在の約束。
237	〔書簡(葉書)〕	〔秋月種英〕	〔相模国片瀨〕	大沼鶴林殿	東京牛込区北町	〔明治43年〕正月元旦	1枚	14.1 × 9.0cm	年は消印による。消印は同月3日付。【内容】年賀状。

238	〔書簡 書〕	〔葉 書〕	宮崎玉緒・ 柳志乃婦	京都市建仁 寺町四条下 水清住院門 内	大沼鶴林先 生	東京市牛込 区萬壽町 32番地	明治27年1月 15日	1枚	14.0×9.0cm	【内容】年賀状。「ニヒトシノオンコロコホ ギメテタクイハヒヲサメクラフサムノミヤ ウチニミナミツカエニナムオンレコロト カニシキミサカケコエ候ラヘバミコロモ ツカオボシメシテヨカサシ候ラヘバ 六十八年ヨハヒヨカサシ候ラヘバ 一十一年ハハヘヨロシクハハカガリナガ マヒテヨマツハコノオンイハヒノツタア カシコはるまたでにほへるうめはものこ とにおくれぬみよのほまれなるらん」
239	〔書簡 書〕	〔葉 書〕	〔佐々木信 綱〕	〔東京市神 田区小川町 1番地〕	大沼鶴林縁	牛込北町2	〔明治44年4月 26日〕	1枚	14.1×9.1cm	差出人氏名・住所は印。年月日は消印によ る。【内容】過日大会ありしたため引。加筆、 2つとも返す。
240	〔書簡 書〕	〔葉 書〕	〔中根半 綱〕	〔下谷区上 野西黒門町 4番地〕	大沼鶴林縁	牛込区北町 2番地	〔明治42年1月3 日〕	1枚	14.0×8.9cm	差出人氏名・住所は印。表面は印刷。末尾 「七十九更半蘭間」【内容】年賀状。漢詩「己 酉詩歴」を印刷。
241	〔書簡 書〕	〔葉 書〕	吉田東伍		大沼善次郎 殿	牛込区北町 2番地	〔明治43年1月2 日〕	1枚	14.1×9.1cm	年月日は消印及び、戌の印による。2顆捺印。 「吉田東伍」と記す。【内容】年賀状。
242	〔書簡 書〕	〔葉 書〕	相取素彦		大沼鶴林殿	東京市牛込 区北町2番 地	〔明治41年1月 17日〕	1枚	14.1×9.1cm	【内容】年賀状。貴作をも示され、枕翁後 嗣の名に愧じざる事と感吟。
243	〔書簡 書〕	〔葉 書〕	大沼鶴林	東京市牛込区 北町	楠莊三郎殿	韓國平壤旭 町銀行舎下 久保之直様 留守宅	〔明治42年12月〕 23日	1枚	14.0×9.1cm	年月日は消印による。同月26日付消印もあり 。【内容】漢詩「勸題新年雪恭賦五章 鶴林禮史大沼書」。
244	〔書簡 書〕	〔葉 書〕	〔井上哲次 郎〕	〔東京市小 石川区表町 109番地〕	大沼鶴林縁	牛込区北町 2	明治43年1月1 日	1枚	14.2×9.0cm	印刷。【内容】年賀状。恭賀新年。先日御 通知有る新聞の報道は、筆記者の誤、御返 事申し上げる。
245	〔書簡 書〕	〔葉 書〕	橋本海関	ハリマ明石 入丸下	大沼鶴林縁	東京市牛込北 町	〔明治43年〕1月 19日	1枚	14.1×9.0cm	年は消印による。同月20日付消印もあり 。【内容】日本女子商業学校の盛否如何。風 評如何。同校銀印書は先日取り寄せ。私立 の事にて幾程の功あへるや。幹團雪は只今團 気にて解省仕。君へ願う。当月中入学願書 出すに付、至急願う。同学校1ヶ月の寄宿 料も御ついでに願う。
246	〔書簡 書〕	〔葉 書〕	〔小野正 弘〕	〔東京府下 葉町町上妙 義坂〕	大沼鶴林縁	市内牛込区 北町2番地	丁未歲旦〔明治 40年1月1日〕	1枚	14.1×9.1cm	差出人氏名・住所は印。年は消印による。 消印は同月3日付。「九十四老人」とあり。 【内容】年賀状。

請求記号 枝番	標題	作成者 (発信者)	作成者 住所	受信者	受信者 住所	作成 年月日	数量	寸法	備考
247	〔書簡 書〕	湖山小野 愿	(東京府下 巢鴨町)上駒 込め義坂	大沼鶴林様	牛込区北町 2番地	(明治38年1月)	1枚	14.2 × 9.1cm	年月は消印と内容による。破損。印記 「九十二翁」湖山【内容】年賀状。
248	〔書簡 書〕	小野湖山	京都親手上駒 込め義坂	大沼鶴林様	市内牛込区 北町2番地	(明治)39年歳旦	1枚	14.1 × 9.1cm	消印は同月4日付。【内容】年賀状。
249	〔書簡 書〕	土井通公	京都市東区 桑下ル東人	大沼鶴林兄	東京牛込区 富町32番 地	明治29年10月 29日	1枚	14.1 × 9.0cm	「破戸」と印あり。【内容】先日は御注意有 難し。其の御御問合せの義こ付。詳細返事 其の如何。佐々木浜子、四電納治、免道 春千代等の宿所、御一報願ひ上げる。
250	〔書簡 書〕	湖山 八十八翁		大沼鶴林様	市内牛込区 北山伏町 13番地	(明治34年1月 29日)	1枚	14.2 × 9.0cm	年月日は消印による。【内容】湖山八十八翁】 【内容】年賀状。【作成者補】小野湖山
251	〔書簡 書〕	石橋雲米	大阪北浜2 丁目	大沼鶴林先 生	東京牛込区 籠筒町	(明治29年)12 月22日	1枚	14.0 × 9.1cm	年は消印による。【内容】『詩学明升』『到着 致生す。河内へ御権留下さるべし』『枕山 先生詩鈔』出来の上は拜見致したし。
252	〔封筒〕	本間健 四郎	越後寺泊 町	大沼鶴林 先生	東京牛込 区牛込二 番地	(明治41年12月 21日)	1袋	18.8 × 11.8 cm	請求記号枝番224～251までを取めてい たもの。年月日は消印による。
253	〔書簡〕	永井壮吉	(麻布市 兵衛町1丁 目6番地)	楠正濟様	(麹町区)下 六番町13 番地	(大正13年)12 月6日	1通	18.1 × 63.3cm (封 筒20.0 × 8.0cm)	封筒を付す。封筒の差出人氏名・住所は印。 【内容】拜信の御蔵事持参致すべき旨の宛、 至急大取まで用事出来。年内滞任の心組、 失礼乍ら便を以て御返上申し上げる。【翻 刻】『荷風全集』27巻390【参考】受信者 は楠壮三郎。
254	〔書簡〕	永井壮吉	(麻布市 兵衛町1丁 目6番地)	楠正濟様	(静岡県興 津町)	(昭和16年)6月 25日	1通	17.8 × (封 筒)55.9cm × 高)19.0 × 12.5cm)	封筒を付す。封筒の差出人氏名・住所は 印。【内容】御高示の断簡は先年小生手帖へ書き留 め置かず。今日のところ何も返事致し兼ねる。 枕山先生正室は飯沼の弘経寺極上人の御 介人。先年品川正徳寺にて聞き及ぶ。【翻刻】 『荷風全集』27巻562【参考】受信者は楠 壮三郎。
254	〔書簡〕	永井壮吉	(麻布区市 兵衛町1丁 目6番地)	楠正濟様 楠壮三郎様	(麹町区)下 六番町13 番地	(大正13年)2月 5日	1通 (2 枚)	①23.1 × 13.1cm × ②23.1 × 13.1cm (封 筒)20.6 × 7.1cm)	封筒を付す。【内容】枕山先生事跡はこの 正月より少々初め、『女性』と申す雑誌 へ掲載。別封にて同雑誌御送り申す。文章 拙劣にて考証も甚だ難雑。却って先哲の 名を辱むるよきか。浅宮伝法院へは近 御立寄致したし。御蔵書並びに古文書類今 日訪問致したし。御蔵書並びに古文書類今 少々拜信いたしましたし。【翻刻】『荷風全集』 27巻378

255	〔書簡(葉書)〕	永井壯吉	麻布市兵衛町1丁目6番地	麻布市兵衛町1丁目6番地	桐町区下六番町13番地	[大正12年]10月5日	10	1枚	14.2 × 8.9cm	年は内容による。〔内容〕おつぞや拝借致す。豊家御系函送納仕るべき如、豊後多用の為延向三月中には持参致すべし。【翻刻】『尚風全集』27巻374
256	〔書簡(葉書)〕	永井壯吉	東京麻布区市兵衛町1ノ6	桐正濟様	駿河国興津町中宿85大沼様内	[昭和14年]6月24日	6月	1枚	14.0 × 9.1cm	消印は同月25日付、貼紙1枚あり。〔内容〕風景好き地へ御下居の由成義の幸りと存す。小生無事罷り住り。【翻刻】『尚風全集』27巻541〔参考〕受信者は桐正三郎。
257	〔書簡(葉書)〕	永井壯吉	麻布市兵衛町1ノ6	桐正三郎様	府下杉並町由端671	[昭和6年]12月1日	12月	1枚	13.9 × 9.0cm	年は消印による。〔内容〕『秋田魁新聞(ママ)』御送下され有難く存す。【翻刻】『尚風全集』27巻441
258	〔住所録〕	—	—	桐正三郎様	—	—	—	1冊	22.6 × 15.4cm	本文44丁。【翻刻】『米簡』147
259	報知簿	—	—	—	—	明治24年10月	10月	1冊	12.5 × 34.5cm	上書に「明治廿四年十月報知簿」とあり。横帳。表紙共紙。墨附5丁(表紙含む)。〔内容〕大沼枕山死亡時の報知宛名簿。【翻刻】『米簡』148
260	枕山先生門人帳	—	—	—	—	—	—	1綴(補修前1冊)	22.4 × 30.8cm(補修前22.4 × 15.3cm)	上書に「枕山先生門人帳」とあり。仮綴。全29丁。表紙共紙。墨附15丁(表紙含む)。試験回答(明治34年の「順夫中士試験用紙」使用)裏紙を使用。
261	枕山先生遺稿刻費諸君雜貫簿	—	—	—	—	明治26年	—	1冊	12.1 × 32.8cm	上書に「明治廿六年 枕山先生遺稿刻費諸君雜貫簿」とあり。横帳。表紙共紙。墨附3丁(表紙を含む)。
262	風雅集元稿	—	—	—	—	—	—	1冊	24.7 × 17.1cm	書名は打付題による。「風雅集元稿」「明治風雅集第三篇原稿」を合綴。「風雅集元稿」表紙に「十首」と墨書。「閑了」と朱書あり。「明治風雅集第三篇原稿」表紙に「紙数六枚二十一首」と墨書。「閑了」と朱書。ともに「明治采風社原稿用紙」使用。大沼枕山評の朱筆書入れあり。仮綴。「風雅集元稿」は本文3丁表紙1丁、「明治風雅集第三篇原稿」は本文6丁表紙1丁。
263	読韓非子	楊園外史 小山弘毅 卿	—	—	—	—	—	1冊	23.6 × 16.9cm	書名は巻題による。打付題「読韓非」。墨・朱書入れ多数あり。本文6丁、表紙・裏表紙各1丁。
264	大平人名録書画帖二編(引札)	—	—	—	—	—	—	1枚	13.5 × 27.8cm	刊。一枚物。書名角書「本朝異邦明治一覽」。大沼枕山は「補助」の役割にあり。
265	〔漢詩集〕	—	—	—	—	—	—	1冊	26.5 × 18.4cm	仮綴。17丁(表紙、遊紙各1丁を含む)。遊紙に8顆分の印記(「枕山」など)あり。
266	筆歌墨舞	—	—	—	—	—	—	1綴	23.5 × 30.0cm(付180 × 26.2cm)	書名は打付題による。仮綴。墨附20丁(表紙を含む)。付：今田哲夫による読み下し17枚。

